



競争力を有し経営の基本精神に基づいた、グローバルな 研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー



2018年度決算発表

2019年5月14日

Better Health, Brighter Future

重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社 (以下、「武田薬品」) によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション (それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます。) は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図していません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、(投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく) 情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で (受領者に対して提供される追加情報と共に) 提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性があります。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us and/or our)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見込み、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。特に、本プレゼンテーションには、売上収益、営業利益、調整後EBITDA、税引前当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益、基本的 1 株当たり利益、無形資産償却費及び減損損失、その他の営業収益/費用、実質的な売上収益、実質的な Core Earnings の対売上収益比率並びに実質的な Core EPS 及び純有利子負債に関する情報を含む、武田薬品の財務及び事業業績に関する予想及び経営予測が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語又は同様の用語若しくはその否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものでもなく、既知及び未知のリスクと不確実性その他の要素を伴います。リスクと不確実性には、日本、米国及び世界中の一般的な経済条件を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、関連法規、製品開発計画の成功又は失敗、規制当局による判断とその時期、為替変動、市場で販売された製品又は製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念等、買収対象企業とのPMI (買収後の統合プロセス) が含まれますが、これらに限られません。これらにより、当社の実際の業績、経営結果、財務内容は、将来見通し情報において、明示又は暗示された将来の業績、経営結果、財務内容とは、大きく異なる可能性があります。当社の業績、経営結果又は財務状況に影響を与え得る事項の詳細に関しては、米国証券取引委員会に提出した Form 20-F による登録届出書の「第3項重要事項」D. リスクファクターをご参照ください (<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/> 又は www.sec.gov において閲覧可能です。)。当社又は当社の役員は、この将来見通し情報において示された予想が結果的に正しいかどうかを何ら保証するものではなく、実際の業績又は経営結果は予想と大きく異なることがあり得ます。本プレゼンテーションの受領者は、将来見通し情報に過度に依存するべきではありません。武田薬品は、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果を示すものではなく、また、その予測、予想又は見込みではありません。

IFRSに準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、IFRSに準拠しない財務指標及び目標値が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、IFRSに基づく場合には含まれることとなる一定の利益及びコストを除外してあります。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションのスライド63、64、66-70、74に記載した、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。





財務情報

当社の財務諸表は、IFRS (国際会計基準) に基づき作成しております。シャイアー社の財務諸表は米国会計基準に基づき作成されております。従いまして、両社の財務情報は直接的に比較検討可能なものではありません。

シャイアー社の買収は2019年1月8日に完了しており、当社の2019年3月31日までの事業年度における連結業績には、2019年1月8日から2019年3月31日までのシャイアー社の業績が含まれています。なお、「旧武田薬品」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収前の当社のビジネスを意味し、「旧Shire社」ビジネスとの記載は、シャイアー社の買収により当社が取得したビジネスを意味しています。さらに、本プレゼンテーションにおいては、当社の調整後EBITDA及びシャイアー社の Non-GAAP EBITDAへの言及がございます。当社の調整後EBITDAはIFRSに準拠した指標ではなく、IFRSに準拠した指標の中で最も類似するものです。また、シャイアー社の Non-GAAP EBITDAは、米国会計基準に準拠した指標ではなく、米国会計基準に準拠した指標の中で、当期利益が最も類似するものです。当社の調整後EBITDA及びシャイアー社の Non-GAAP EBITDAの更なる説明並びにIFRS及び米国会計基準において最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションのスライド58と74をご参照ください。当社の調整後EBITDA及びシャイアー社の Non-GAAP EBITDAは、(1) 当社の業績がIFRSに基づいており、シャイアー社の業績が米国会計基準に基づいていること、及び (2) 当社の調整後EBITDAとシャイアー社の Non-GAAP EBITDAの定義が異なることから、直接的に比較検討可能なものではありません。



AGENDA

- 01. Introduction** ———— クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO 
- 02. ビジネスエリアのフォーカス**
- 03. R & Dエンジン** ———— アンドリュー・ブランブ
リサーチ&開発
プレジデント 
- 04. 強固な財務プロフィール** ———— コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル オフィサー 
- 05. Closing Remarks** ———— クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO 
- 06. 質疑応答**



INTRODUCTION



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

- 01.**
Introduction
- 02.**
ビジネスエリアの
フォーカス
- 03.**
R & Dエンジン
- 04.**
強固な財務
プロフィール
- 05.**
Closing
Remarks
- 06.**
質疑応答

競争力を有し経営の基本精神に基づいた、グローバルな 研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーとしての明確な戦略

ビジネスエリア のフォーカス



5つの主要ビジネスエリア

消化器系疾患、希少疾患、
血漿分画製剤、オンコロジー
(がん)、ニューロサイエンス
(神経精神疾患)

R & D エンジン



疾患領域の絞り込み

パートナーシップモデルの推進、
患者さんを中心に捉えたサイエ
ンス主導のイノベーション文化

強固な財務 プロファイル



利益率向上

事業投資、負債の返済、株主還
元のため、**キャッシュフローを
創出**

タケダの価値観と企業文化

Patient – Trust – Reputation – Business
ベスト・イン・クラスの雇用主

4



2018年度は戦略的優先事項を着実に推進

ビジネスエリア のフォーカス



- 主力成長製品が力強い売上収益モメンタムを維持
(例: ENTYVIO +34.8%、NINLARO +36.1%、TRINTELLIX +19.4%)
- シャイアー社、タイジェニックス社買収が完了
- 買収完了後に新たに血漿収集センター10施設を取得
- ノン・コア事業であるマルチラブ社、テックプール社を売却
- XiidraおよびTachosilについて譲渡する契約を締結

R & D エンジン



- ENTYVIOの潰瘍性大腸炎患者を対象としたVARSITY試験（アダリムマブと直接比較試験）において、有意に高い臨床的寛解を達成、米国および欧州で皮下注射製剤の承認申請^{*1}
- TAKHZYRO（米国、欧州）およびALUNBRIG（欧州）の承認、ADCETRIS（日本、欧州）およびTRINTELLIX（米国）の添付文書改訂
- 2018年4月以降、15の新規候補物質がステージアップ
- バイオテック企業/アカデミアと新たに44のパートナーシップを締結、最先端の細胞療法を対象とした3つのパートナーシップを公表

強固な財務 プロファイル



- 旧武田薬品の実質的なCore Earningsの対売上収益比率が対前期比で540bps向上、力強い業績の推移とグローバル経費削減イニチアチブが牽引
- 力強い旧武田薬品の業績が、シャイアー社買収関連費用を完全に吸収
- 不動産および有価証券の売却を通じ、2,009億円キャッシュを創出
- 投資適格信用格付を維持、2019年3月31日時点の純有利子負債/調整後EBITDAは4.7倍

5 ^{*1} 米国は生物学的製剤承認申請、欧州は適応追加申請



ビジネスモメンタムの良好な推移により力強い2018年度実績を達成、 将来の成長への強固な基盤を構築

力強い2018年度実績

旧武田薬品		連結業績*1	
実質的な売上収益	+5.3 %	財務ベース 売上収益	+18.5 %
実質的な Core Earnings の 対売上収益比率	+540 bps	財務ベース Core Earnings	+42.4 %
実質的なCore EPS	346 円	財務ベース EPS	113 円

一時的な非資金費用である取得原価の配分が影響

- 主力成長製品と規律ある経費管理により、2018年度実績はマネジメントガイダンスを上回る
- シャイアー社の統合は予定通り進捗、ビジネスモメンタムを維持

将来の成長への強固な基盤

2019年度業績は旧シャイアー社が通期で貢献

- 5つのビジネスエリアにおける主力成長製品の伸長が、一部製品（ベルケイド、フィラジル、ユーロリック他）の独占販売期間終了に伴う大幅なマイナス影響および薬価へのプレッシャーの大部分を相殺する見通し
- シャイアー社の通期での業績貢献、コストシナジー、規律ある経費管理により、Core Earningsの対売上収益比率は20%台半ば、実質的なCore EPSの見通しは350～370円*2

将来の成長に向けた強固な基盤

- 売上収益の成長率は14のグローバル成長ブランドが牽引
- 効率的かつ革新的なR&Dエンジンが持続的なパイプラインを創出
- 利益率の向上とレバレッジ低下にコミット

*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を含む。

*2 資産等売却の影響を除く

2019年度のビジネスモメンタムは、独占販売期間満了に伴う大きな減収影響の 大部分を相殺する見通し

- 5つのビジネスエリアにおける主力成長製品の伸長により、ベルケイド、フィラジル、ユーロリックおよびその他製品の独占販売期間満了に伴う減収影響の大部分を相殺する見通し
- 旧Shire社の年間での業績貢献、コストシナジーや規律ある経費管理により、実質的なCore EPSは350～370円の見通し

2019年度のマネジメントガイダンス（事業の売却影響を除く）

実質的な売上収益の成長*1、2	横ばいから僅かに減少
実質的なCore Earningsの対売上収益比率	20%台半ば
実質的なCore EPS	350～370 円
1株当たり年間配当金	180 円

米国のベルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与が可能な競合品一つが、2019年7月に市場に追加参加してくることを業績予想上の前提としている。競合品の追加参加がない場合、実質的な売上収益の成長（試算ベース）は「横ばいから僅かに増加」になる見込み。

（注）2019年度のマネジメントガイダンスには、XiidraおよびTachosilの譲渡にかかる業績影響を織り込んでおりませんが、当社は、これら譲渡が本マネジメントガイダンスに対して意味ある影響を与えるものとは考えておりません。

*1 同一為替レートをベースとした成長率（2018年度期中平均レートを適用）

*2 ベースラインは3兆3,000億円（旧武田薬品とShire社の2018年4月～2019年3月の12ヶ月の売上収益を合算した試算ベース）
旧Shire社の売上収益は、2018年4月～2019年3月の期中平均レートである1ドル＝111円で換算

シャイアー社の統合は順調に進捗、 コストシナジーのターゲットを約20億米ドルに引き上げ

統合に関する ハイライト

☑ 統合開始から5ヶ月、
全体的な進捗は順調

☑ 年間のコストシナジー（税前）の
ターゲットを引き上げ、2021年
度までに約20億米ドルを実現、
一時費用は累積で30億米ドル

☑ 事業売却を実施、これまでに
XiidraやTachosilの売却を実施

買収完了前

買収完了後

人材および 企業文化

- 新たなタケダ・エグゼクティブチーム（TET）の任命
- 各TETメンバーの第一レイヤー200名を任命

- 買収完了の2日後に、第1回目のリーダーシップ会議を開催
- 各TETメンバーの第2レイヤー、第3レイヤーを指名
- 主要なポリシーの調整が完了

組織および ロケーション

- 4つの地域体制と3つのグローバルビジネスユニットにおいて、タケダとシャイアー社のノウハウを活用するための新たなオペレーションモデルを公表
- 米国におけるオペレーションのポストンへの集約を決定

- スイス チューリッヒを欧州のリージョナル本社に選定
- 英国における拠点統合を発表
- 米国における医薬情報担当者を削減、プライマリケアおよびニューロサイエンス スペシャリティチームの新体制を導入

システムおよびIT

- 統合初日からスムーズなオペレーションを可能とさせる大規模な計画を立案（例：Email）

- 統合プラットフォームで経費削減およびシナジーのターゲット、一時費用の進捗、人員数の状況を全社的に管理

経験豊富で多様性に富んだタケダ・エグゼクティブチーム

日本



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

コスタ・サルウコス
チーフフィナンシャル
オフィサー

岩崎 真人
シャパン ファーマ
ビジネスユニット
プレジデント

平手 晴彦
コーポレート
コミュニケーションズ&
パブリックアフェアーズ
オフィサー

中川 仁敬
グローバルジェネラル
カウンセル

**バドマ・
ティルヴェンガダム**
チーフ HR オフィサー

古田 未来乃
コーポレートストラテジー
オフィサー &
チーフ オブ スタッフ

米国



**アンディー・
ブランブ**
リサーチ&デベロップメント
プレジデント

ラモナ・セケイラ
US ビジネス ユニット
プレジデント

テレサ・ピテッティ
グローバル オンコロジー
ビジネスユニット
プレジデント

ラジーヴ・ヴェンカヤ
グローバル ワクチン
ビジネスユニット
プレジデント

ジェラード・グレコ
グローバルクオリティ
オフィサー

マルチェロ・アゴ스티
グローバル
ビジネスデベロップメント
オフィサー

ヘレン・ギザ
チーフ インテグレーション
& ダイベステイチャー
マネジメント オフィサー

スイス



**ジャイルズ・
プラットフォーム**
EUCAN ビジネスユニット
プレジデント

カミラ・ソングバリー
チーフベイスン
バリュー & プロダクト
ストラテジー オフィサー

ジュリー・キム
プラスマデライブ
セラピューティクス
プレジデント

トマス・ウオズフスキー
グローバル
マニファクチャリング &
サプライ オフィサー

ムワナ・ルゴコ
チーフ エシックス &
コンプライアンス
オフィサー

シンガポール



リカルド・マレック
グローバル & エマーゼン
マーケティング ビジネスユニット
プレジデント

ベスト・イン・クラスのガバナンスを有する取締役体制

社内取締役



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



岩崎 真人
取締役
ジャパン ファーマ
ビジネスユニット プレジデント



アンドリュー・ブランブ
取締役
リサーチ&デベロップメント
プレジデント

独立社外取締役^{*1}



坂根 正弘
独立取締役
取締役会議長
指名委員会委員長



ミシェル・オーシンガー
独立取締役



志賀 俊之
独立取締役
報酬委員会委員長



東 恵美子
独立取締役



藤森 義明
独立取締役



イアン・クラーク
独立取締役



オリビエ・ボユオン
独立取締役



スティーブン・ギリス
独立取締役

監査等委員会



山中 康彦
取締役
監査等委員



国谷 史朗
独立取締役
監査等委員長



初川 浩司
独立取締役
監査等委員



ジャン=リュック・プテル
独立取締役
監査等委員

CB 取締役会議長

独立社外取締役

NC 指名委員会

CC 報酬委員会

10 ^{*1} 東京証券取引所の有価証券上場規定の定義によるもの



ビジネスエリアのフォーカス



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & Dエンジン

04.
強固な財務
プロフィール

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答

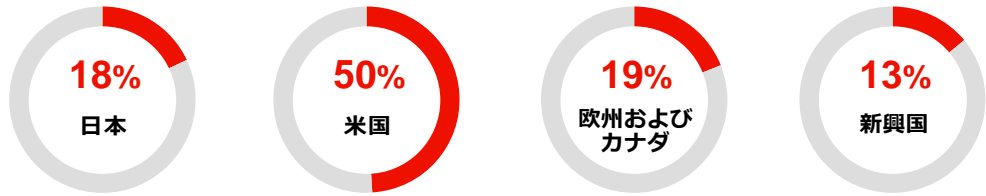
競争力を有し経営の基本精神に基づいた、グローバルな 研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニー

約3兆3,000億円
約300億米ドル

売上収益
(pro-forma)*1



地域別内訳 (約)



*1 Pro-formaベースラインは2018年4月~2019年3月の旧武田薬品と旧Shire社製品を合計売上高を期中 (2018年4月~2019年3月) 平均レート、1ドル=111円で換算したもの



5つの ビジネス エリア

5つの主要ビジネス
エリアにおける
ポートフォリオが
売上収益の約75%
を占める*1

*1 (%) : 2018年度売上収益 Pro-forma
は2018年4月~2019年3月の旧武田薬品
と旧Shire社製品を合計売上高を期中
(2018年4月~2019年3月) 平均レ
ート、1ドル=111円で換算したもの

*2 約11%は遺伝性血管浮腫および希少
血液疾患に含まれる血漿分画製剤の
Cinryze、Feiba、Immuneven、Hemofil
M、Immuline、Immusevenを除く。
これら製品を含めると約14%

*3 当社は2019年5月8日、当社はXiidra
の譲渡契約をノバルティス社と締結した
ことを公表

消化器系疾患 (売上収益の約19%)*1	希少疾患 (約21%)		血漿分画製剤 (約11%)*2	オンコロジー (約12%)	ニューロサイエンス (約12%)	その他 (約25%)	
	希少代謝性疾患 (約6%)	希少血液疾患 (約11%)	遺伝性血管浮腫 (約4%)				
			希少免疫疾患				
Entyvio <i>vedolizumab</i>	elaprased <i>(cukuralsase)</i>	ADVATE <i>(Antihemophilic Factor (Recombinant))</i>	TAKHZYRO <i>(saracolumab-lyci injection)</i>	GAMMAGARD LIQUID <i>(Immune Globulin Intravenous (Human)) 10%</i>	NINLARO <i>(nintedanib capsules)</i>	Vyvanse	AZILVA®
Takecab®	REPLAGAL® <i>(COMBINATION TABLETS OF COLESTYRAMINE AND VITAMIN B12)</i>	ADYNOVATE <i>(Adenovirus type 5 vector containing adeno-associated virus type 2 gene)</i>	firazyr <i>(fibrinogen)</i>	HyQvia <i>(Human Normal Immoglobulin (HNI) Recombinant Human Hyaluronidase)</i>	ALUNBRIG <i>(brigatinib tablets)</i>	Trintellix <i>(vortioxetine)</i>	Nesina® <i>(nateglinone)</i>
ALOFISEL	VPRIV	vorvendi <i>(von Willebrand factor (Recombinant))</i>	KALBITOR <i>(acarbose tablets)</i>	Cuvitru <i>(Cryoprecipitate Depleted Plasma) 25%</i>	VELCADE® <i>(vandetanib tablets)</i>	Mydayis® <i>(mycophenolate sodium tablets)</i>	Uloric® <i>(febuxostat tablets)</i>
Gattex <i>(gabapentin 300 mg and 600 mg tablets)</i>	Natpara	Obizur <i>(Antihemophilic Factor (Recombinant), Porcine Sequence)</i>		Flexbumin <i>(Human Albumin)</i>	ADACETRIS <i>(pramipexole vesicles)</i>	Colcrys <i>(colchicine 0.3 mg tablets)</i>	Neosaldina®
DEXILANT® <i>(dexlansoprazole)</i>		RIXUBIS <i>(COAGULATION FACTOR IX (RECOMBINANT))</i>		HUMAN ALBUMIN	ICLUSIG® <i>(iclovir tablets)</i>	AZILECT® <i>(azilectone tablets)</i>	xiidra®*3
Lialda <i>(mesalazine) 1.2g</i>		AGR'LIN® <i>(angrelide hydrochloride (recombinant) 1 mg)</i>		Glassia		intuniv®	Magnyl Xefo Ebrantil ...etc.
amitiza <i>(lubiprostone)</i>		FEIBA		Aralast NP <i>(alpha-1 antitrypsin concentrate)</i>		BUCCOLAM®	
motegrity® <i>(procalcitonin) tablets 1mg, 2mg</i>		IMMUNATE		kenketu glovenin-1			
		HEMOPIL M		KENKETU NONTHRON®			
		IMMUNINE		KENKETU ALBUMIN			
		IMMUSEVEN					

バランスの取れたグローバルブランドから成る14のポートフォリオが 中期的な成長を牽引する見通し

		2018年度 売上収益*1			グローバル ブランド			2018年度 売上収益*1			グローバル ブランド
		(億円)	(百万米ドル)	対前年		(億円)	(百万米ドル)	対前年			
消化器系疾患	Entyvio vedolizumab	2,613	2,360	+34.8%	🌐	血漿分画製剤	IMMUNOGLOBULIN	2,865	2,588	+8.6%	🌐
	Takecab	582	526	+20.1%	🌐		GAMMAGARD LIQUID [Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%	Kiovig [Immune Globulin Subcutaneous (Human)] 10%	+3.6%	🌐	
	Gattex [Tetraglycine sNcA origin] for injection	520	470	+29.5%	🌐		HyQvia [Human Normal Immoglobulin (H)]	+6.4%	🌐		
	ALOFISEL	-	-	N/A (2018年8月 上市)	🌐		Cuvitru [Human Normal Immoglobulin (H)] 2%	+90.3%	🌐		
希少疾患	Natpara	276	250	+53.4%	🌐	ALBUMIN/FLEXBUMIN	584	528	+2.1%	🌐	
	ADYNOVATE [Adenovirus Vector-based Recombinant Coxsackievirus B3]	547	494	+24.8%	🌐	オンコロジー	NINLARO [Ixazomib] capsules	602	544	+36.1%	🌐
	TAKHZYRO [Tazemetopir] for Injection	167	151	N/A (2018年8月 上市)	🌐		ADcetris [brentuximab vedotin]	453	410	+19.7%	🌐
	elaprase [icucicliresil]	722	652	+10.0%	🌐		ALUNBRIG [Erdafitinib] for Injection	50	45	+85.1%	🌐
	REPLAGAL [Replagal] for Injection	520	470	-3.4%	🌐	ニューロエクス	Vyvanse	2,464	2,226	+0.0%	🌐
	VPRIV	388	351	-2.5%	🌐		Tintellix [vorloxetine]	545	493	+19.4%	🌐

14 *1 旧武田薬品の製品については、実質的な売上収益。旧シャイアー社製品については、財務ベースのpro-forma売上収益（2018年4月～2019年3月の12ヶ月）。
旧Shire社製品の売上収益は期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル=111円で換算



消化器系疾患

炎症性腸疾患とその他の消化器系疾患におけるグローバルリーダー

成長に貢献する主な製品

 vedolizumab 潰瘍性大腸炎 クローン病	50ヶ国以上で承認取得、中国での申請を準備中 従来の治療法で効果が得られなかった患者さんに対して生物学的製剤のファーストラインの位置づけで、引き続きグローバル展開を実施 皮下投与製剤や移植片対宿主病に対する臨床開発を含めたライフサイクルマネジメントを実施 ピーク売上高見込みは40億～50億米ドル*1
	日本*2やアジア数ヶ国で上市場 日本では、逆流性食道炎や低用量アスピリン投与時における胃潰瘍の再発抑制における効果により処方数が数量ベースで増加
 (Tetraglycine sNcA origin) for injection 短腸症候群	米国、欧州、その他数ヶ国で承認取得 承認されている国々では引き続き情報活動を行い、非常に稀な疾病である短腸症候群において、本剤の認識度を高める
	2018年3月に欧州で承認取得、同年8月に初めて患者さんに商用ベースでの投与が実施され、これまでに50名以上の患者さんの治療に用いられる 上市国では製品ブランドの確立や本剤による治療の提供が可能な設備の整った医療機関を特定し、それらの施設で治療を行うためのトレーニングを実施することに注力 グローバルでの申請をサポートする臨床第3相試験「ADMIRE-CD-II試験」の患者さんへの投与を開始
 成人クローン病における肛門瘻複雑瘻孔	

消化器疾患領域の 中期的な売上高見通し

~6,400億円
~\$58億米ドル



さらなる
成長

成長ドライバー

- ◎ 主要成長品目
- ◎ 新規上市品目 (例: TAK-721)

逆風

- ◎ 独占販売期間の満了 (AMITIZA、DEXILANT、PENTASA)
- ◎ LIALDA、Pantoprazoleの減少

15 *1 社内予想、成功確率調整後
*2 大塚製薬と共同プロモーションを実施

*3 2018年4月～2019年3月の旧武田薬品および旧Shire社の合計金額をPro Formaベースで期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル=111円で換算



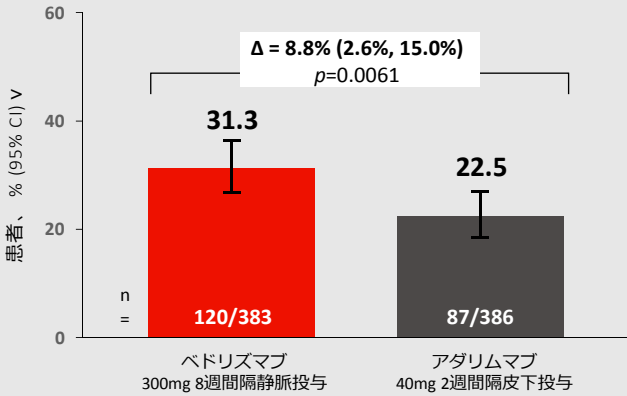


ENTYVIOは上市から5年経過後も力強い成長が続く； ピーク売上高見込みを40億 – 50億米ドル*1に引上げ



UCの患者さんにおいて、ENTYVIO（ベドリズマブ）はアダリムマブと比較し、52週時点で有意に高い臨床的寛解*2を達成*3

臨床的寛解
(主要評価項目)



出典: Schreiber S, et al. J Crohns Colitis 2019;13(Supplement_1):S612-3 (abst OP34). [Oral presentation] UC: 潰瘍性大腸炎; CD: クローン病

上市国では引き続きマーケットシェアを拡大

- 生物学的製剤未使用の患者セグメントにおけるENTYVIOの使用が継続的に増加することにより、米国(UC 24.7%; CD 13.0%)*4および欧州・カナダ(UC 21.1%; CD 12.1%)*5において市場シェアが拡大

販売国数は継続して増加

- 日本におけるCDの申請効能は現在審査中、UCについては上市済み
- 中国は2020年度に申請の可能性*6

ライフサイクルマネジメントを通じ、製品価値を最大化

- UCを対象とした「VARSITY試験」において、同じく生物学的製剤である抗TNFα抗体のアダリムマブと直接比較し、ENTYVIOは52週時点で有意に高い臨床的寛解を達成
- 皮下投与と製剤は米国においてUCで申請、欧州でUCとCDで申請
- 移植片対宿主病の予防に対する臨床第3相試験において、2019年3月に患者への投与を開始

*1 社内予想、成功確率調整後
*2 臨床的寛解: Mayoスコア (潰瘍性大腸炎の疾患活動性を評価するための指標) が2ポイント以下、かつ全てのサブスコアが1ポイント以下と定義
*3 全体解析によるデータは治験薬を少なくとも1度投与されたすべての無作為化患者を含む
*4 出典: Patient shares estimated from projected patient counts from SHA Medical and Pharmacy Claims data, February 2019.
*5 出典: 社内データ
*6 2018年8月8日、切迫する医療ニーズを踏まえ、中国医薬品審査 評価センター (Center for Drug Evaluation) は、国外で販売されている48製品を選定し、製薬企業に対し、人種差のないことを示すデータを含む国外データを活用した販売許可申請を推奨。優先審査/承認プロセスが適用される予定。



希少代謝性疾患: ライソゾーム病における安定したポートフォリオを維持し、 NATPARAの売上伸長に注力

成長に貢献する主な製品



米国および欧州で承認取得済み



低カルシウム血症が適切に管理されていない副甲状腺機能低下症患者さんにおける病気による負担に対する認識を高め、低カルシウム血症が標準治療ではコントロールできない患者さんのための補助治療の選択肢としてのNATPARAを位置付けを確立する

副甲状腺機能低下症

ライソゾーム病向け既存ブランドによる 安定的なポートフォリオ



ハンター症候群



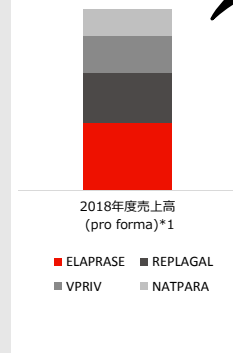
ファブリー病



ゴーシェ病

希少血液疾患ポートフォリオの 中期的な売上高見通し

~1,900億円
~17億米ドル



さらなる
成長

成長ドライバー

- ⊕ NATPARAの伸長
- ⊕ ライソゾーム病における安定したポートフォリオ (ELAPRASE、REPLAGAL、VPRIV)

*1 2018年4月~2019年3月の売上収益を期中 (2018年4月~2019年3月) 平均レート、1ドル=111円で換算



希少疾患

希少血液疾患:競争が一層厳しくなる環境において、患者さんに価値のある治療の提供を継続

成長に貢献する主な製品



米国、欧州・カナダ、日本で承認取得済み、欧州や新興国において継続的に上市活動を行う



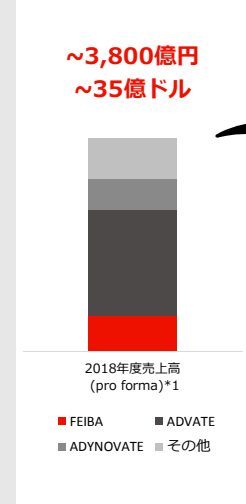
血友病A患者さんの標準治療としてADYNOVATEを用いた個別化第VIII因子補充療法に引き続き集中

血友病A



関節の健康を維持するため、出血を減らして患者さんがより活発な生活ができるよう、myPKFITとのADYNOVATEにより個別化された出血予防により差別化を進める。第VIII因子レベルの最適化が個別化治療アプローチにおいて不可欠な要素

希少血液疾患ポートフォリオの
中期的な売上高見通し



全体としては
減少

- 成長ドライバー
 - ADYNOVATEの伸長
- 逆風
 - 競争の激化 (特にFEIBAとADVATE)

*1 2018年4月～2019年3月の売上収益を期中 (2018年4月～2019年3月) 平均レート、1ドル=111円で換算



希少疾患

遺伝性血管浮腫: TAKHZYROの力強い成長を想定、本疾患におけるリーダーシップポジションを確実に維持する

成長に貢献する主な製品



米国、欧州・カナダで承認取得済み、中国では承認審査中



米国での立ち上がりは、既存の予防療法と新たに予防投与を実施する患者さんによるもの

遺伝性血管浮腫発作の予防

- 医薬情報活動に注力:
- 遺伝性血管浮腫発作ゼロを治療目標とし、遺伝性血管浮腫発作予防を標準治療に位置づけ
 - 従来治療とは異なる革新的な効果、安全性の高さ、自己注射 (皮下投与) の簡便さを踏まえ、発作予防の第一選択としてのTAKHZYROを位置づける
 - 患者さんのTAKHZYROに対するアクセスを確保

遺伝性血管浮腫ポートフォリオの
中期的な売上高見通し



さらなる
成長

- 成長ドライバー
 - TAKHZYROの伸長
- 逆風
 - 独占販売期間満了 (FIRAZYR)
 - TAKHZYROによるCINRYZEへのカニバリゼーション

*1 2018年4月～2019年3月の売上収益を期中 (2018年4月～2019年3月) 平均レート、1ドル=111円で換算



血漿分画製剤

他の血漿分画由来の希少免疫疾患製品： 免疫グロブリンやアルブミン製剤の安定的成長のため、供給を管理

成長に貢献する主な製品

GAMMAGARD LIQUID
[Immune Globulin Intravenous (Human)] 10%
PID, MMN

50ヶ国以上で承認取得済み（欧州ではKIOVIG）
GAMMAGARD LIQUIDについて、PIDおよびMMNの標準治療薬として定評のあるIVIGブランドとしての地位をさらに強固なものとする

Kiovig
PID, SID, 他の免疫性神経疾患

HyQvia
Human Normal Immunoglobulin (10%)
Recombinant Human Hyaluronidase

HYQVIAは米国、欧州、ラテンアメリカ、中東市場で承認取得済み；
CUVITRUは米国、欧州で承認取得済み

Cuvitru
Immune Globulin Subcutaneous (Human) 20%
PID
SID（欧州）

毎月投与のHYQVIA、より頻回投与のCUVITRUのいずれかにより、患者さんと医療従事者の方により柔軟に皮下投与の投与スケジュールを決めて頂くことが可能

HYQVIAのCIDPに対する臨床第3相試験を実施中

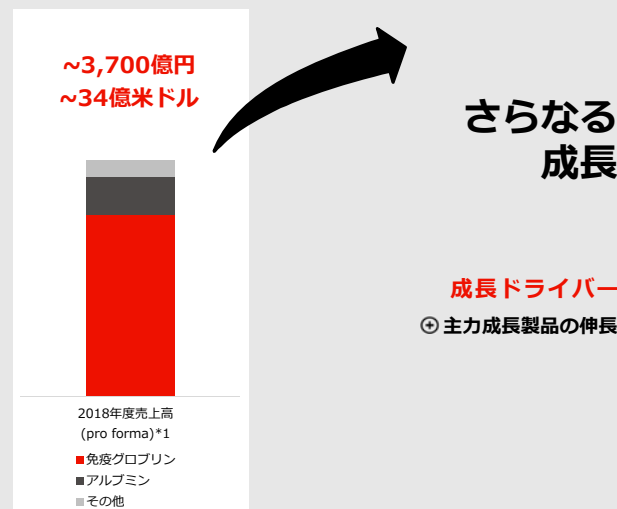
Flexbumin
(Human Albumin)

40ヶ国以上で承認取得済み
中国やそれ以外の優先市場である米国やインドでのビジネスチャンスを最大化

HUMAN ALBUMIN
血液量減少、
低たんぱく血症

FLEXBUMINの軽量で、密封システム（折りたたみ可能なバッグ）を採用しており、院内感染のリスクを減らし、無駄を最小限にすることが可能

他の血漿分画由来の希少免疫疾患製品
ポートフォリオの中期的な売上高見通し



20 PID：原発性免疫不全、SID：二次免疫不全、MMN：多発性運動ニューロパチー、IVIG：静脈内免疫グロブリン、CIDP：慢性炎症性脱髄性多発神経根ニューロパチー

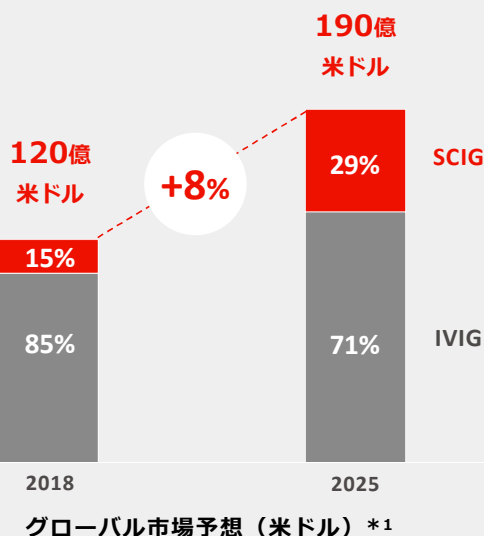
*1 2018年4月～2019年3月の旧武田薬品および旧Shire社の合計金額（Pro Formaベース）の売上収益を期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル＝111円で換算



血漿分画製剤

適切な投資を行い、競争力のあるリーディングポジションを目指す

需要が引き続き顕著な市場成長を牽引する



製造：
コビントン製造工場の稼働

- 2019年3月にFLEXBUMINの製造について、FDAより承認取得
- 免疫グロブリン製品群とアルブミン製剤を中心に量産を開始し、今後数年間で完全稼働を目指すとともに、100万平方フィートを超える工場キャンパスでは需要と供給のギャップを縮小するためにさらなる拡張の機会を検討
- 追加で内部の製造能力の拡張を検討中

供給：
血漿収集に対する投資

Shire社買収完了後、追加で10施設の血漿収集センターを獲得

- 米国メリーランド州に1施設
- オーストリアに2施設
- ハンガリーに7施設

現在、米国で105のセンター、米国外で30のセンターを保有

今後も投資を継続し、毎年2桁のセンター数の増加を目指しながら拠点を広げる予定

21 SCIG：皮下免疫グロブリン、IVIG：静脈内免疫グロブリン
*1 Market share by value, 2016 WW MRB Report, 2017 US MRB Report



オンコロジー

グローバルトップ10のオンコロジープレイヤーを目指す

成長に貢献する主な製品

NINLARO
(ixazomib) capsules

再発/難治性
多発性骨髄腫

- 60ヶ国以上で承認取得済み、2018年度は中国およびフランスで上市
- グローバル展開を引き続き行い、効果、利便性、忍容性のプロファイルを活かし、セカンドライン以降におけるマーケットシェアを伸ばす
- 多発性骨髄腫の自家造血幹細胞移植歴のない維持療法に対する試験のデータ読み出し（2019年度後半）
- ピーク売上高見込みは15億～20億米ドル^{*1}

ADCETRIS
brentuximab vedotin

悪性
リンパ腫

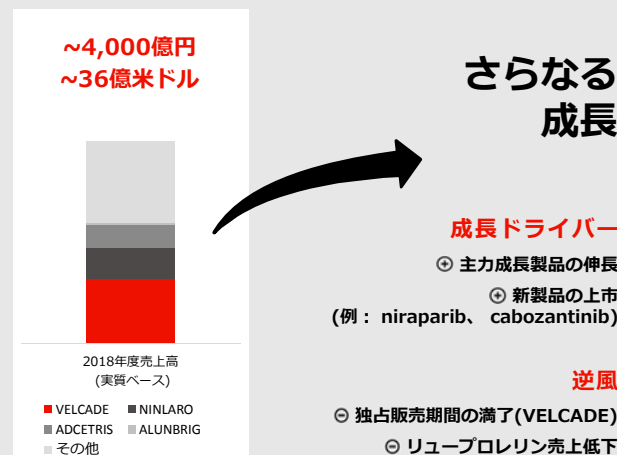
- 70ヶ国以上で承認取得済み^{*2}
- ホジキンリンパ腫のフロントラインに対する適応症について、日本では2018年9月に欧州では2019年度2月に承認取得済み
- 末梢性T細胞リンパ腫（PTCL）のフロントラインについて、日本では2019年3月に申請済み、欧州では2019年度中に申請予定

ALUNBRIG
BRIGATINIB
Brig H3975

ALK陽性
非小細胞肺癌
(クリゾチニブ後)

- 米国・欧州で承認取得済み、日本・中国では臨床試験を実施中
- 米国での非小細胞肺癌のファーストラインの申請を、2019年度後半にALTA-1L試験の2度目の中間解析に基づき行う予定
- セカンドラインにおけるAlectinibとの直接比較試験を実施中
- ピーク売上高は見込み10億米ドル^{*1}

オンコロジーポートフォリオの 中期的な売上高見通し



22

^{*1} 社内予想、成功確率調整後

^{*2} ADCETRISはSeattle Geneticsより導入；北米外での販売権を保有



ニューロサイエンス

注意欠陥多動性障害におけるリーダーシップポジションをはじめとした力強い 米国でのフランチャイズ

成長に貢献する主な製品

Vyvanse

注意欠陥
多動性障害

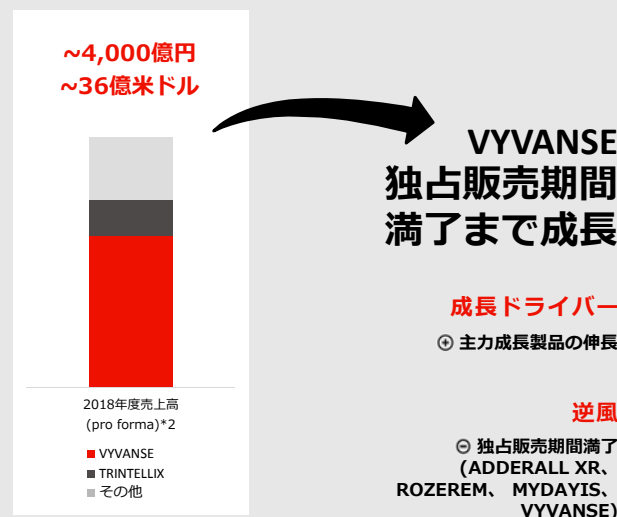
- 23カ国で承認済、2019年3月に日本で承認
- 米国において、ブランドADHD治療剤で1位
- 小児患者での市場シェア維持、成人での市場シェア拡大により中期的に数量による米国での成長を実現

Trintellix
vortioxetine

大うつ病

- 米国で上市済み、日本では承認審査中^{*1}
- 米国で1位のブランド抗うつ薬
- 米国で認知機能の一症状である処理速度（2018年5月）および治療に伴う性功能障害（2018年10月）に関するデータの添付文書への追記を達成

ニューロサイエンスポートフォリオの 中期的な売上高見通し



^{*1} TrintellixはLundbeckより導入；米国と日本で共同販売権を保有

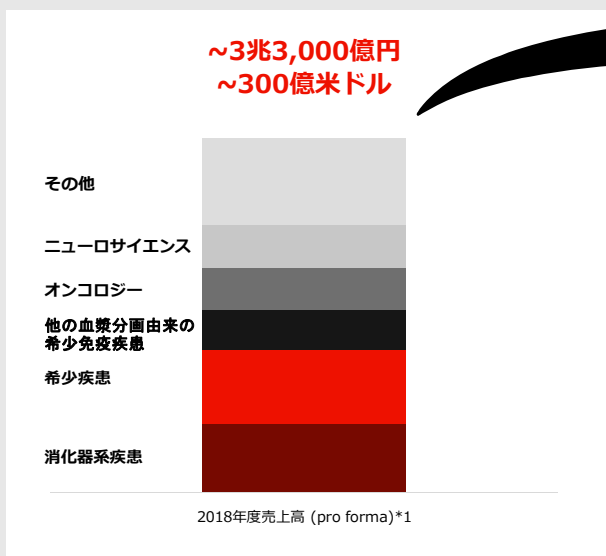
^{*2} 2018年4月～2019年3月の旧武田薬品および旧Shire社の合計金額（Pro Formaベース）を期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル＝111円で換算

23



主要ビジネスエリアにおけるバランスの取れたグローバルブランドから成る14のポートフォリオによりパイプラインが成熟するまでの中期的売上高成長を牽引すると想定

当社会計売上高の中期的な見通し



さらなる成長

成長ドライバー

- ⊕5つの主要ビジネスエリアでの主要製品の成長
- ⊕新規上市品目

逆風

- ⊖独占販売期間満了
- ⊖競合圧力
- ⊖価格圧力

*1 2018年4月～2019年3月の旧武田薬品および旧Shire社の合計金額（Pro Formaベース）を期中（2018年4月～2019年3月）平均レート、1ドル=111円で換算



R & D エンジン



アンドリュー・プランプ
リサーチ&デベロップメント
プレジデント

01. Introduction

02. ビジネスエリアのフォーカス

03. R & D エンジン

04. 強固な財務プロフィール

05. Closing Remarks

06. 質疑応答

独自のR&Dエンジンによりイノベーションを促進

領域の絞込み



オンコロジー



消化器系疾患



希少疾患



ニューロサイエンス



血漿分画製剤



ワクチン

疾患領域

先進的なパートナーシップモデル

イノベーション文化

独自のR&Dエンジン

パイプライン開発投資の
リソースを確保する機動的
かつ効率的な組織

重要な機能を有する
ダイナミックかつ
持続可能な研究・早期臨床
開発エンジン

相互に有益な
パートナーシップを通じた
変革の推進

目的達成に向けた
実行に**集中**

2018年度の重要な研究開発マイルストンの達成状況

品目	予定されたイベント		18年度第3四半期以降の進捗
ADCETRIS	ホジキンリンパ腫（フロントライン適応）欧州承認	H2	✓ 新規
	ホジキンリンパ腫（フロントライン適応）日本承認	H2	✓
ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌（フロントライン適応）中間解析	H1	✓
	ALK陽性非小細胞肺癌（セカンドライン適応）欧州承認	H2	✓
Cabozantinib	肝細胞がん 日本ビボタル試験開始	H2	✓
ICLUSIG	フィラデルフィア染色体陽性の急性リンパ性白血病グローバルビボタル試験開始	H1	✓
	初発の多発性骨髄腫 初回の中間解析	H1	→
NINLARO	自家造血幹細胞移植後の多発性骨髄腫の維持療法 初回の中間解析	H1	→
Pevonedistat	高リスク骨髄異形成症候群/慢性骨髄単球性白血病/低プラスト急性骨髄性白血病Ph-2最終解析	H2	→
TAK-788	非小細胞肺癌 申請が可能なPh-2試験の患者への投与開始	H2	✓ 新規 近く開催される学術会議において発表の予定
ENTYVIO	クローン病 日本申請	H1	✓
	潰瘍性大腸炎 日本承認	H1	✓
	潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤 米国・欧州申請	H2	✓ 新規 欧州では、クローン病についても申請
TAK-954	経腸栄養不耐性 Ph-2b試験開始	H1	✗ 疾患治療方法の変化に伴い患者登録を行うことが困難になったため中止
TAK-906	術後麻痺性イレウス Ph-2b試験開始	H2	✓ 新規
TAK-721 (SHP621)	胃酸球性食道炎Ph3導入療法301試験のトップラインデータ判明	H2	✓ 新規
TRINTELLIX	大うつ病 日本申請	H2	✓
	治療に起因する性機能障害 (TESD) に関する米国添付文書のアップデート	H2	✓
TAK-925	ナルコレプシー 患者におけるブルーフォブコンセプト検証	H2	→ 初期段階の目標を達成し、予定通りに進捗
TAK-003	デングウイルスワクチン Ph-3主要解析	H2	✓ 近く論文発表の予定
TAK-214	ノロウイルスワクチン Ph-2b最終解析 (成人)	H1	✓

革新的なパイプラインは2018年4月以降、15の新規候補物質がステージアップ

	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3/申請	承認*
オンコロジー	<ul style="list-style-type: none"> TAK-252 (Shattuck) Agonist Redirection Checkpoint Solid tumors TAK-573 (Teva) Anti-CD38-antennaline R/R MM TAK-079 (Entero) Anti-CD39 mAb R/R MM, SLE TAK-164 (ImmunoGen) G1C IG1 ADC GI malignancies TAK-981 (SUMO) SUMO1 inhibitor Multiple cancers 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-228 (sanisartib) mTORC1/2 inhibitor Endometrial cancer TAK-659 (SYK/FLT-3 inhibitor) Hematologic malignancies, NHL TAK-788 (EGFR/HER2 inhibitor) NSCLC TAK-931 (CDCC7 inhibitor) ESCC, sHNSCC 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-385 (relugolix) Mivovant GnRH antagonist Prostate Cancer (JP) TAK-924 (pevonedistat) NAE inhibitor HR-MDS/CMML 	<ul style="list-style-type: none"> NINLARO[®] Proteasome inhibitor ADCETRIS[®] Seattle Genetics CD30 ADC ICLUSIG[®] BCR-ABL inhibitor ALUNBRIG[®] ALK inhibitor Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor
消化器系疾患	<ul style="list-style-type: none"> TAK-951 Peptide agonist Nausea & vomiting Kuma062 (PVP Biologics) Glutensase Celiac Disease TAK-018 (Entero) FimH antagonist Crohn's Disease TAK-681 (SHP-681) GLP2 long-acting Short Bowel Syndrome TAK-671 (Samsung Bioepis) Protease inhibitor Acute Pancreatitis 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-906 (DZ/D3R antagonist) Gastroparesis TIMP-Gliadin (Cov) Imm Tol Induction Celiac Disease TAK-954 (Theravance) 5-HT4B agonist POGD 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-721 (SHP521) UC3D/Forbis Oral anti-inflammatory EoE 	<ul style="list-style-type: none"> ENTYVIO[®] o487 mAb Vonoprazan (PCAB) ALOFISEL[®] mesenchymal stem cells GATTEX[®] GLP-2R agonist
希少疾患	<ul style="list-style-type: none"> TAK-611 (SHP611) ERT MLD TAK-531 (SHP631) ArmaGen I2S replacement Hunter CNS TAK-754 (SHP624) Asklepios Biopharm. Gene therapy Hema 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-607 (SHP607) IGF-1/IGFBP3 Chronic Lung Disease TAK-609 (SHP609) I2S replacement Hunter CNS (IT) 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-755 (SHP655) EM Biologics ERT/ADAMTS-13 cTTP TAK-620 (SHP620) GlaxoSmithKline UL97 kinase inh CMV infect. in transplant 	<ul style="list-style-type: none"> OBIZUR (ipson) FVIII replacement VONVENDI (ipson) vWF replacement NATPARA (ipson) PTH replacement ADYNOVATE (ipson) FVIII replacement TAKHZYRO (ipson) Anti-kallikrein mAb
ニューロサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> TAK-653 (AMPAR potentiator) TRD TAK-418 (LSD1 inhibitor) Kabuki Syndrome TAK-041 (GPR139 agonist) CIAS NS MEDI-1341 (Acrion/Zeneca) Alpha-syn mAb Parkinson's Disease TAK-925 (Acrion/Zeneca) Orexin 2R agonist Narcolepsy WVE-120101 (Wave Life Sciences) mTHT/SNP1 ASO Huntington's Disease WVE-120102 (Wave Life Sciences) mTHT/SNP2 ASO Huntington's Disease 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-935 (Ovid Therapeutics) CH21H inhibitor Rare Pediatric Epilepsies TAK-831 (DAAG) DAAG inhibitor CIAS NS 		<ul style="list-style-type: none"> TRINTELLIX[™] Lundbeck Multimodal anti-depressant BUCCOLAM (Lundbeck) GABA Allosteric Modulator
血漿分画製剤				<ul style="list-style-type: none"> HYQVIA (Halyzyme) IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase CINRYZE (C1-inh) HAE prophylaxis
ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> TAK-021 (EV71 Vaccine) TAK-426 (SABZ) Zika Vaccine 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-214 (Norovirus Vaccine) 	<ul style="list-style-type: none"> TAK-003 (Dengue Vaccine) 	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度第三四半期以降のステージアップ/追加 2018年4月1日以降のステージアップ/追加 オーファンドラッグ (希少疾病医薬品) 指定 (いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの) 申請が可能な臨床第2相試験 <p>Phase 1~3に示されている品目は明確な新規候補物質</p>

*臨床開発活動を積極的に実施している品目。2019年5月14日時点のバイプライン。

28 全てのバイプラインを示しているわけではありません。他の疾患領域でも開発を実施していることがあります。疾患名の略語については補遺をご参照ください。

既発売品の価値を最大化

	PHASE 1	PHASE 2	PHASE 3	申請
オンコロジー	<ul style="list-style-type: none"> ALUNBRIG[®] ALK inhibitor 1L ALK-NSCLC (CN) 	<ul style="list-style-type: none"> ALUNBRIG[®] ALK inhibitor 2L ALK-NSCLC (JP, CN) ICLUSIG[®] BCR-ABL inhibitor TKI res. chronic phase CML (US) ALUNBRIG[®] ALK inhibitor 2L ALK-NSCLC 2nd gen TKI (GL) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L HCC (JP) NINLARO[®] Proteasome inhibitor R/R MM triplet Tx (GL) Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer - salvage (JP) Niraparib GlaxoSmithKline PARP 1/2 inhibitor Ovarian cancer - salvage (JP) 	<ul style="list-style-type: none"> ADCETRIS[®] Seattle Genetics CD30 ADC 1L PTCL (EU) ALUNBRIG[®] ALK inhibitor 1L ALK-NSCLC (EU, US) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 1L RCC (JP) NINLARO[®] Proteasome inhibitor Maint. ND MM no SCT (GL) NINLARO[®] Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (GL) NINLARO[®] Proteasome inhibitor R/R MM doublet Tx (US, EU, JP) NINLARO[®] Proteasome inhibitor ND MM (GL) 	<ul style="list-style-type: none"> NINLARO[®] Proteasome inhibitor R/R Amyloidosis (GL) ALUNBRIG[®] ALK inhibitor 2L ALK-NSCLC 12H with alectinib (GL) ADCETRIS[®] Seattle Genetics CD30 ADC 1L PTCL (JP) Cabozantinib Exelixis VEGFR/RTK inhibitor 2L RCC (JP) NINLARO[®] Proteasome inhibitor Maint. ND MM post-SCT (JP)
消化器系疾患		<ul style="list-style-type: none"> Vonoprazan (PCAB) GERD PPI partial resp (EU) 	<ul style="list-style-type: none"> ALOFISEL[®] mesenchymal stem cells Perianal Fistulas in CD (US, JP) ENTYVIO[®] o487 mAb Ulcerative Colitis (CN) ENTYVIO[®] o487 mAb SubQ UC (US, JP) ENTYVIO[®] o487 mAb SubQ CD (US, JP) GATTEX[®] GLP-2R agonist Pediatric-SBS (JP) GATTEX[®] GLP-2R agonist Adult-SBS (JP) 	<ul style="list-style-type: none"> ENTYVIO[®] o487 mAb Crohn's Disease (JP) ENTYVIO[®] o487 mAb SubQ UC (EU) Vonoprazan (PCAB) Acid-related diseases (CN) GATTEX[®] GLP-2R agonist Pediatric-SBS (US)
希少疾患	<ul style="list-style-type: none"> NATPARA (ipson) PTH replacement Hypoparathyroidism (JP) 		<ul style="list-style-type: none"> OBIZUR (ipson) FVIII replacement CHAWI (US, EU) ADYNOVATE (ipson) Pediatric HemA (EU) VONVENDI (ipson) vWF replacement VWD Prophylaxis VONVENDI (ipson) vWF replacement VWD Pediatric 	<ul style="list-style-type: none"> TAKHZYRO (ipson) Anti-kallikrein mAb HAE prophylaxis (CN)
ニューロサイエンス			<ul style="list-style-type: none"> BUCCOLAM (Lundbeck) GABA Allosteric Modulator Status Epilepticus (JP) 	<ul style="list-style-type: none"> TRINTELLIX[™] Lundbeck Multimodal anti-depressant MOD (JP)
血漿分画製剤			<ul style="list-style-type: none"> CINRYZE (C1-inh) HAE prophylaxis (JP) HYQVIA (Halyzyme) IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase CIDP HYQVIA (Halyzyme) IgG 10% + Recombinant Human Hyaluronidase Pediatric PID (US) 	

2019年5月14日時点のバイプライン。地域略語: GL = グローバル(米国、欧州、日本、中国)。全てのバイプラインを示しているわけではありません。他の疾患領域でも開発を実施していることがあります。疾患名の略語については補遺をご参照ください。

▶ 2018年度第三四半期以降のステージアップ/追加
▶ 2018年4月1日以降のステージアップ/追加
● オーフアンドラッグ (希少疾病医薬品) 指定 (いずれかの開発地域もしくは効能で指定を受けたもの)
● 申請が可能な臨床第2相試験

イノベーションの次なるウェーブ： 2019年度に予定される新規候補物質パイプラインの主なイベント

	作用機序	疾患/事業領域	予定されるイベント	19年度	
ピボタル段階 開発品	TAK-924 (pevonedistat)	NAE 阻害薬	オンコロジー 骨髄異形成症候群	ピボタルPh-2試験データ読み出し	H1
	TAK-788	EGFR/HER2 阻害薬	オンコロジー	治療未実施の非小細胞肺癌 Ph-3試験開始	H1
	TAK-823 (alisertib)	オーロラA キナーゼ阻害薬	オンコロジー	急性骨髄性白血病 Ph-3試験開始	H2
	TAK-755	ADAMTS13 酵素補充	希少疾患	先天性血栓性血小板減少性紫斑病 Ph-3試験再開	H2
	TAK-609	イズロン酸-2-スルファターゼ補充 (髄腔内投与)	希少疾患	ハンター症候群および認知障害 Ph-3試験データ読み出し (2年間の延長試験)	H1
	TAK-003	デング熱ワクチン	ワクチン	デング熱ワクチンとしての申請可否の判断	H2
	早期臨床段階 開発品	TAK-573	抗CD38抗体と活性減弱サイトカインとの融合蛋白	オンコロジー	再発/難治性多発性骨髄腫 POC検証試験データ読み出し
TAK-676		STING アゴニスト	オンコロジー	全身性静脈内投与 Ph-1試験開始	H1
Cell Therapy		(現時点では特定せず)	オンコロジー	少なくとも一つの革新的がん免疫細胞療法へのヒト初回投与への進捗	H2
TIMP-Glia / Kuma062		免疫寛容誘導 / グルテン分解酵素	消化器系疾患	セリアック病 POC検証試験のデータ読み出し	H1
TAK-748		第IX因子遺伝子治療	希少疾患	血友病B Ph-1試験開始	H2
TAK-925		オレキシン2R アゴニスト	ニューロサイエンス	来たるR&D Day でオレキシン2Rアゴニストプログラムアップデート	H2
TAK-426		ジカウイルス ワクチン	ワクチン	ジカウイルスワクチンとしての早期POC検証試験 データ読み出し	H2

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。POC：ブルーフォブコンセプト；疾患名の略語については補遺をご参照ください。



2019年度に予定される既発売品研究開発における主なイベント

	品目	予定されるイベント	19年度
	ADCETRIS	末梢性T細胞リンパ腫 (フロントライン適応) 欧州申請 (ECHELON-2 試験)	H1
	ALUNBRIG	ALTA-1L ALK陽性非小細胞肺癌 (フロントライン適応) 2回目の中間解析	H1
	Cabozantinib	腎がん (セカンドライン適応) 日本承認 (日本における初の承認)	H2
	NINLARO	自家造血幹細胞移植未実施の多発性骨髄腫における維持療法Ph-3試験 データ読み出し (TOURMALINE MM4試験)	H2
	ALOFISEL	クローン病に伴う肛門複雑瘻孔 米国ピボタル試験開始 (ADMIRE II 試験)	H1
	ENTYVIO	クローン病 皮下投与製剤 米国申請	H2
	GATTEX	潰瘍性大腸炎 皮下投与製剤 米国承認	H2
	TAKHZYRO	短腸症候群 米国承認 (小児適応)	H1
	TAKHZYRO	ブラジキニン介在性血管性浮腫 試験開始	H2
	TRINTELLIX	大うつ病 日本承認	H1
	GLASSIA/ARALAST	α1 アンチトリプシン欠損を伴う肺気腫 ピボタル試験開始	H2

表中の研究開発マイルストーンは一部であり、包括的なものではありません。タイムラインは現在想定しているものであり、変更の可能性があります。疾患名の略語については補遺をご参照ください。



R&D Days 開催予定

ニューヨーク R&D Day

2019年11月14日 (木)*

東京 R&D Day

2019年11月21日(木)*

*開催日が確定しましたら、案内状をお送り致します

32



強固な財務 プロフィール



コスタ・サルウコス
チーフ フィナンシャル オフィサー

01.

Introduction

02.

ビジネスエリアの
フォーカス

03.

R&Dエンジン

04.

強固な財務
プロフィール

05.

Closing
Remarks

06.

質疑応答

2018年度の好調な業績は主力の成長製品と規律ある経費管理が牽引

2018年度 旧武田薬品の業績*1

当初予想を大きく上回る

財務ベース 実績

- **売上収益 +1.0%**
事業等の売却影響と為替影響を受けるも増収
- **営業利益 +70.3%**
ビジネスモメンタムが牽引し、不動産の売却益が2017年度に発生した和光純薬の譲渡にかかる一時的収益の減益影響を相殺

実質ベース 実績

- **売上収益 +5.3%**
ENTYVIO(+34.8%)とNINLARO(+36.1%)が大きく貢献
- **Core Earnings +38.7%**
対売上収益比率は540bps向上、4分の3は経費比率の低下が貢献

2018年度 連結業績*2

旧武田薬品の好業績により買収関連費用を吸収

財務ベース 実績

- **売上収益 +18.5%**
流通チャネルにかかる武田薬品の方針をShire社製品に適用、一時的なネガティブ影響を受ける
- **EPS Δ 52.6%の113円**
旧武田薬品の好業績により買収関連費用を吸収するも企業結合会計による非資金性の費用の大きな影響を受ける

キャッシュ フロー

- **フリー・キャッシュ・フロー +4.6%**
資産売却によりキャッシュを創出
- **純有利子負債/調整後EBITDA倍率4.7倍**
投資適格信用格付を維持、想定を下回るレバレッジ比率

*1旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。
*2旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を含む。

34

2018年度の旧武田薬品の営業利益は+70.3%となり好調な決算

2018年度 旧武田薬品*1財務ベース実績（対前年度）

(億円)	2017年度	2018年度	対前年度
売上収益	17,705	17,880	+1.0%
営業利益	2,418	4,118	+70.3%
当期利益	1,869	3,129	+67.4%
EPS*2	239 円	399 円	+66.6%
円/ドル	111 円	111 円	Δ 0.4%
円/ユーロ	129 円	129 円	Δ 0.4%
Core Earnings	3,225	3,933	+21.9%
フリー・キャッシュ・フロー	3,615	3,842	+6.3%

旧武田薬品の営業利益はビジネスモメンタムにより対前年度+70.3%（+1,700億円）の増益；
2018年度の不動産の売却益が2017年度に発生した和光純薬とテバ社との合併会社にかかる一時的収益の減益影響を相殺

*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。
*2 2018年度のEPS算出に用いた株式数：784,477,109株（Shire社買収完了前日の2019年1月7日時点）

35



2018年度の旧武田薬品の好業績により2018年度に発生したShire社買収関連費用の全額を吸収

2018年度 旧武田薬品（対業績予想）

(億円)	当初予想*1、2	旧武田薬品*2	対当初予想	
売上収益	17,370	17,880	+510	+2.9%
営業利益	2,010	4,118	+2,108	+104.9%
税引前当期利益	1,830	3,574	+1,744	+95.3%
当期利益	1,390	3,129	+1,739	+125.1%
EPS*4	178 円	399 円	+221 円	+124.2%
Core Earnings	3,095	3,933	+838	+27.1%

Shire社買収関連費用*3

(億円)	
買収費用等	△253
統合費用	△596
金融費用	△413
税引前当期利益影響	△1,263
Core Earnings 影響	-

旧武田薬品の好業績により2018年度に発生したShire社買収関連費用の全額を吸収; +1,744 億円 対 △1,263 億円

*1 2018年5月14日公表。

*2 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。

*3 旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用。

*4 2018年度のEPS算出に用いた株式数：784,477,109株（Shire社買収完了前日の2019年1月7日時点）

2018年度の連結業績にはShire社の3ヶ月分の業績が貢献

2018年度 財務ベース実績（対前年度）

(億円)	2017年度	2018年度*1	対前年度
売上収益	17,705	20,972	+18.5%
営業利益	2,418	2,050	△15.2%
当期利益	1,869	1,091	△41.6%
EPS*2	239 円	113 円	△52.6%
Core Earnings	3,225	4,593	+42.4%
Core Earnings の対売上収益比率	18.2%	21.9%	+3.7pp
CORE EPS	302 円	334 円	+36.4%
フリー・キャッシュ・フロー	3,615	3,781	+4.6%

*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。

*2 2018年度のEPS算出に用いた株式数：961,476,993株（2018年4月～2019年3月の期中平均）

2018年度の財務ベース実績（内訳） 連結EPSは企業結合会計による非資金性の費用の大きな影響を受ける

2018年度 財務ベース実績（対前年度）

(億円)	2017年度		2018年度		2018年度			2018年度		対前年度
	旧武田薬品	旧武田薬品*1 (A)	対前年度	対前年度	Shire社 買収関連費用*2 (B)	Shire社の 業績*3 (C)	企業結合会計 による影響 (D)	連結合計 (A) + (B) + (C) + (D)		
売上収益	17,705	17,880	+175	+1.0%	-	3,092	-	20,972	+3,267	+18.5%
営業利益	2,418	4,118	+1,700	+70.3%	△850	598	△1,816	2,050	△368	△15.2%
当期利益	1,869	3,129	+1,260	+67.4%	△1,002	381	△1,417	1,091	△778	△41.6%
EPS*4	239 円	399 円	+159 円	+66.6%	-	-	-	113 円	△126 円	△52.6%
Core Earnings	3,225	3,933	+708	+21.9%	-	660	-	4,593	+1,368	+42.4%

- Shire社は売上収益で3,092億円、Core Earningsで660億円貢献、流通チャネルにかかる武田薬品の方針をShire社製品に適用し、卸における流通在庫の回転日数を大幅に改善させた一時的な影響を含む
- EPSは△52.6%の113円、企業結合会計による非資金性の費用の大きな影響を受ける

*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。

*2 旧武田薬品とShire社で発生した買収関連費用。

*3 Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、Shire社で発生した買収関連費用を除く。

*4 2018年度のEPS算出に用いた株式数：旧武田薬品 784,477,109株（Shire社買収完了前日の2019年1月7日時点）、連結合計 961,476,993株（2018年4月～2019年3月の期中平均）

2018年度の旧武田薬品の実質的な成長は当初および修正ガイダンスを大きく上回る

2018年度 旧武田薬品*1 実質的な成長（対前年度）

	当初ガイダンス 2018年5月14日	修正ガイダンス 2018年10月31日	2018年度実績
実質的な売上収益	1桁台前半	1桁台前半	+5.3% <input checked="" type="checkbox"/>
実質的な Core Earnings	1桁台後半	10%台後半	+38.7% <input checked="" type="checkbox"/>
実質的な Core Earnings の対売上収益比率	+100-200bpsの範囲 +100bpsに近い比率	+100-200bpsの範囲 +200bpsに近い比率	+540bps <input checked="" type="checkbox"/>
実質的な Core EPS	10%台前半	20%台半ば	+29.0% <input checked="" type="checkbox"/>

*1旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。

注記：ここでは、2019年4月25日に公表したガイダンスは含めていない。

実質的なCore Earningsの対売上収益比率は2年間で960bps向上 主力の成長製品の伸長とグローバル経費削減イニシアチブの実行が寄与

旧武田薬品*1 実質的な Core Earnings の対売上収益比率の向上（対前年度）

	2017年度	2018年度	2年間合計*4
売上総利益*2の対売上収益比率	+280bps	+140bps	+420bps
経費*3の対売上収益比率	+140bps	+400bps	+540bps
実質的な Core Earnings の対売上収益比率	+420bps 16.9%	+540bps 22.3%	+960bps

グローバル経費削減イニシアチブの推進による利益率の向上

- 業務への完全な組み入れ（KPI、インセンティブ、Zero Based Budgeting、統合システム）
- 2018年度の比率向上（対前年度）のうち、経費削減による貢献は74%

*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）を除く。

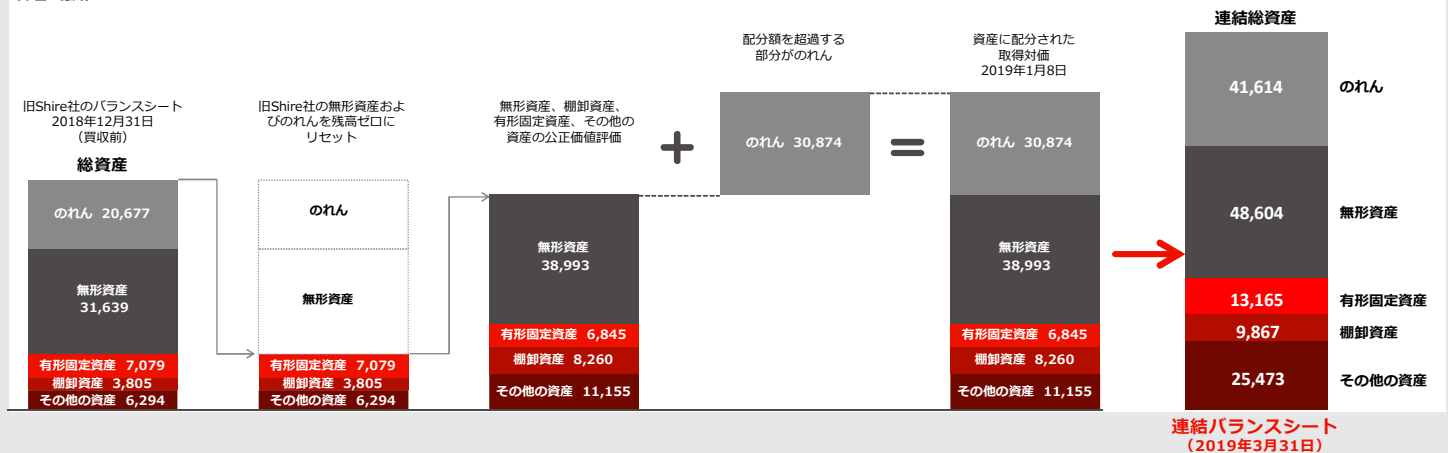
*2 売上総利益から非定期的な影響を控除。

*3 経費は一般管理販売費と研究開発費の合計から非定期的な影響を控除。

*4 2017年度と2018年度の対前年度bpsの単純合算。

取得対価の配分計算においてShire社バランスシートをリセット、 シナジー見直しアップデートにより買収完了前の見積もりから無形資産が減少

（単位：億円）



取得対価の配分結果の概要

- 取得対価の減少、シナジーの増加、旧武田薬品のポートフォリオにより多くのシナジーを配分したことにより、連結ベースの無形資産（約4.9兆円）は買収完了前の見積もり（約6.3～6.7兆円）から減少
- のれんは買収完了前の見積もりと同水準であり、配分結果は他の大きな製薬企業の買収案件に相応
- 棚卸資産の公正価値調整（非資金性の費用）は、在庫回転期間に応じて計上。加重平均では約2年。2018年度実績：822億円、2019年度見込：約2,500億円。
- 無形資産は各製品の経済的耐用年数にわたり償却（非資金性の費用）。Shire社買収により取得した無形資産の償却年数（加重平均）は10年。2019年度見込 Shire社買収関連 約4,300億円、旧武田薬品関連 約1,000億円。
- のれんと無形資産の巨額な減損損失の発生リスクは低い。

2019年度のビジネスモメンタムは、独占販売期間満了に伴う大きな減収影響の大部分を相殺する見通し

- 5つのビジネスエリアにおける主力成長製品の伸長により、ベルケイド、フィラジル、ユーロリックおよびその他製品の独占販売期間満了に伴う減収影響の大部分を相殺する見通し
- 旧Shire社の年間での業績貢献、コストシナジーや規律ある経費管理により、実質的なCore EPSは350~370円の見通し

2019年度のマネジメントガイダンス（事業の売却影響を除く）

実質的な売上収益の成長 ^{*1, 2}	横ばいから僅かに減少
実質的なCore Earningsの対売上収益比率	20%台半ば
実質的なCore EPS	350~370 円
1株当たり年間配当金	180 円

米国のベルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与が可能な競合品一つが、2019年7月に市場に追加参入してくることを業績予想上の前提としている。競合品の追加参入がない場合、実質的な売上収益の成長（試算ベース）は「横ばいから僅かに増加」になる見込み。

（注）2019年度のマネジメントガイダンスには、XiidraおよびTachosilの譲渡にかかる業績影響を織り込んでおりませんが、当社は、これら譲渡が本マネジメントガイダンスに対して意味ある影響を与えるものとは考えておりません。

^{*1} 同一為替レートをベースとした成長率（2018年度期中平均レートを適用）

^{*2} ベースラインは3兆3,000億円（旧武田薬品とShire社の2018年4月~2019年3月の12ヶ月の売上収益を合算した試算ベース）

42 旧Shire社の売上収益は、2018年4月~2019年3月の期中平均レートである1ドル=111円で換算



2019年度の売上収益のガイダンスである「横ばいから僅かに減少」は独占販売期間満了に伴う大きな減収影響を前提

売上収益の成長率に対して想定される影響 (パーセンテージポイント)	
ビジネス・モメンタム	+6.0 - 7.0pp
ベルケイドの独占販売期間満了 ^{*1}	約△2.0pp
その他製品の独占販売期間満了 ^{*2}	約△5.0pp
実質的な売上収益の成長	横ばいから僅かに減少

米国ベルケイドの競合品の追加参入がない場合、実質的な売上収益の成長（試算ベース）は「横ばいから僅かに増加」

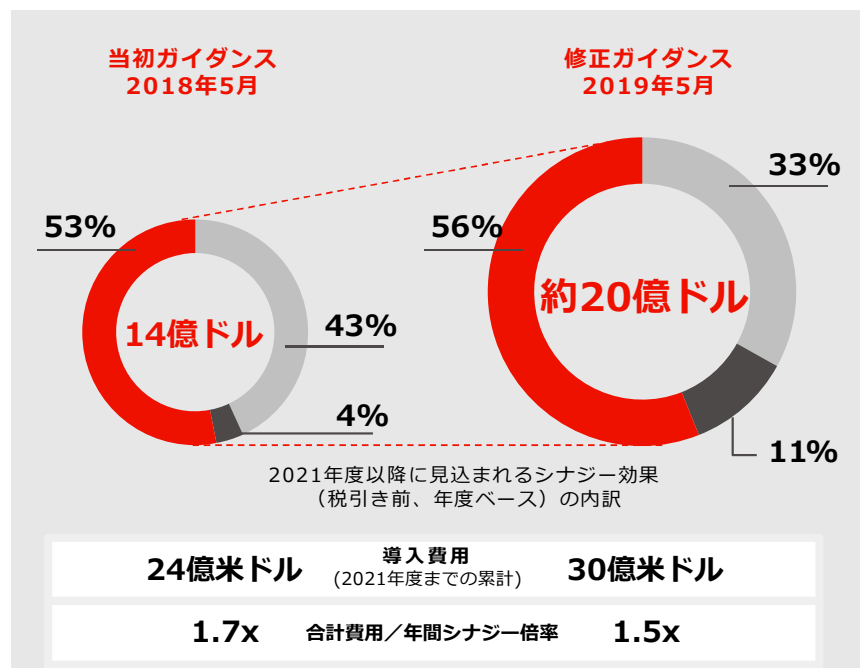
^{*1} 米国のベルケイドについては、治療上の同等性が認められない、静脈投与と皮下投与可能な競合品一つが2019年7月に市場参入してくることを業績予想上の前提としている。また、米国外では後発品の影響により、2019年度のロイヤリティ収入の減少を見込んでいる。

^{*2} 2019年度に独占販売期間満了影響を前提とするその他の製品:

米国: フィラジル、ユーロリック、ロゼレム、アデロールXR 日本: エンブレル、リュープロレリン(3ヶ月製剤)、ベネット(1ヶ月製剤)



ボトムアップの精緻な調査を経て、想定コストシナジーのターゲットを14億米ドルから約20億米ドルに引き上げ



販売・一般管理

- 営業マーケティングの効率化
- 重複する拠点の統合
- 重複するITシステムの削減
- 中央サポート機能において重複するコストの削減

研究開発

- 実施中の研究課題および初期パイプラインプログラムの合理化
- 重複するリソースの削減
- 臨床試験資材の購買費用効率化

製造・供給

- 購買費用の合理化
- 生産性向上を通じた効率化
- サプライチェーンの最適化
- 重複するリソースの削減と組織規模の適正化

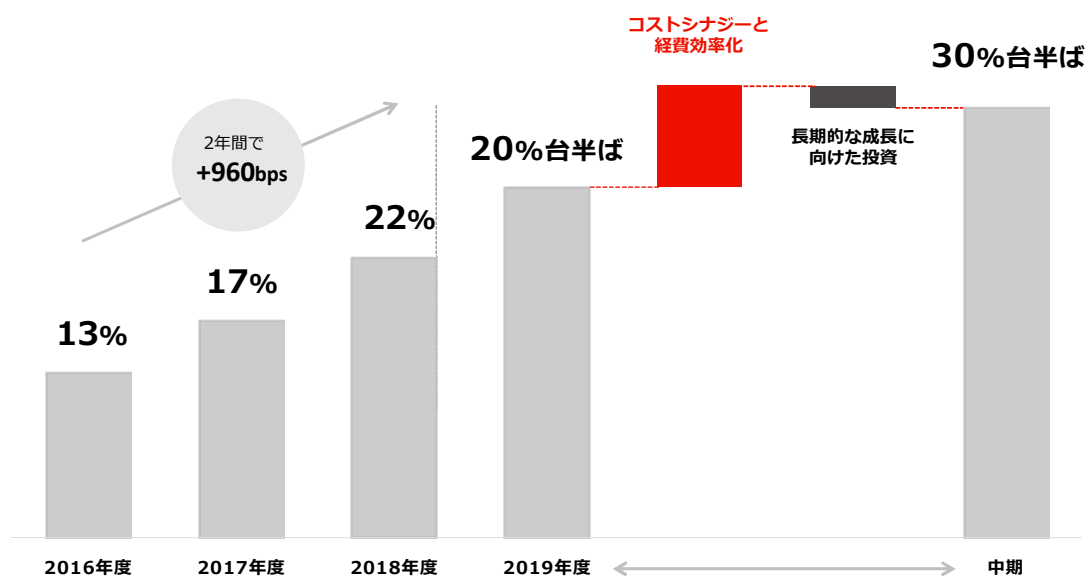
コストシナジーおよび経費削減のターゲットに向けた確実な遂行を進捗管理するプラットフォームが稼働済み



- グローバル経費削減イニシアチブのプラットフォーム (例: システムやプロセス) を活用、コストシナジーの進捗管理を統合
- 主要なコストパッケージ (例: 報酬・福利厚生、旅費、会議およびイベント費、施設費) にフォーカスし、月次で進捗管理
- マネジメントのKPIおよびインセンティブにターゲットを組み入れ
- 人員数ならびにシナジー達成に必要な導入費用も進捗管理

コストシナジーとグローバル経費削減イニシアチブが引き続き利益率向上を牽引する見通し

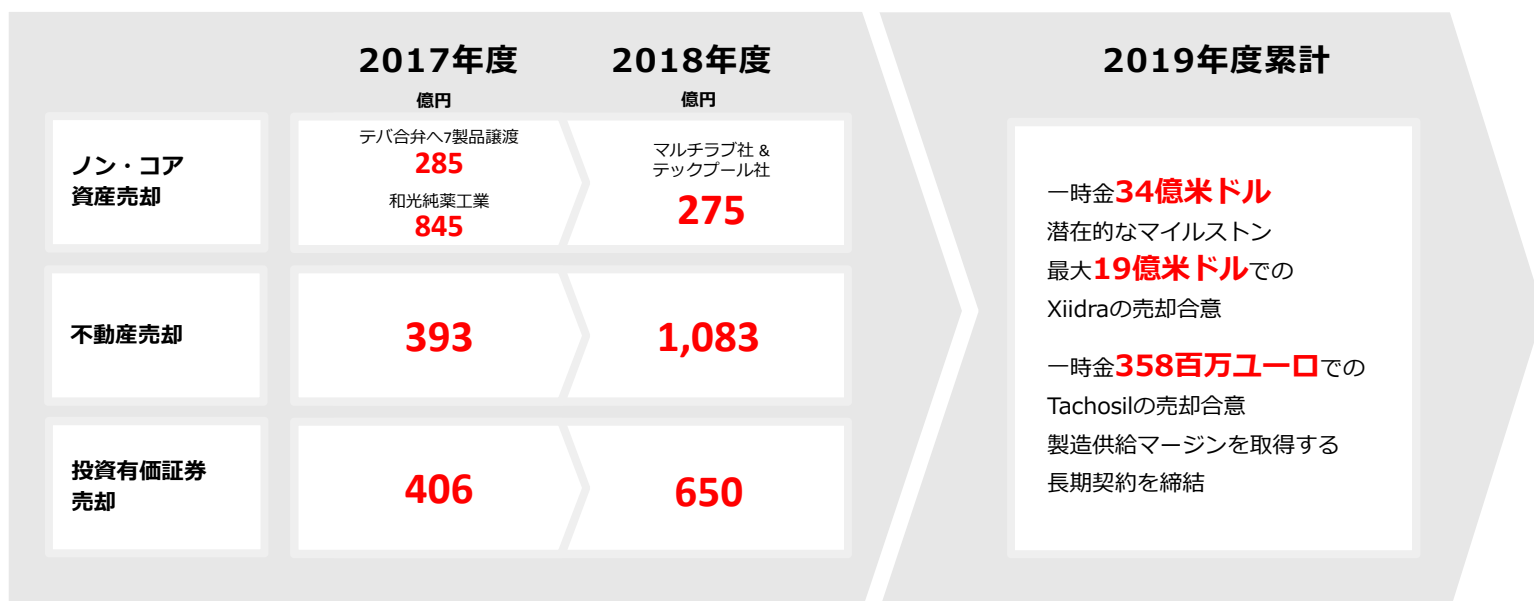
コストシナジーとグローバル経費削減イニシアチブの遂行により 業界トップクラスの利益率(実質的なCore Earnings)を目指す



46



キャッシュの創出とビジネスへのフォーカスを可能にする ノン・コア資産売却のこれまでの力強い実績



47

(注) 一定のクローリング条件、法的要件、規制上および適用される現地の労使協議会の要件を満たすことを前提として、XiidraとTachosilの譲渡は2019年後半に完了する予定。



2つの資産譲渡の合意はポートフォリオの簡素化とレバレッジの低下を加速

対象製品	XIIDRA (グローバルでの権利)	TACHOSIL (グローバルでの権利)
年間売上	2018年(1月1日から12月31日)の売上高は3億8,800万米ドル	2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日)の売上高は約1億5,500万米ドル
譲渡先	Novartis社	Ethicon社 (Johnson & Johnson)
対価	一時金34億米ドルと最大19億米ドルのマイルストーン	一時金358百万ユーロ(約4億米ドル)
主な契約内容	<ul style="list-style-type: none"> 約400名の従業員がNovartis社に転籍 譲渡は2019年後半に完了する予定 	<ul style="list-style-type: none"> オーストリア リンツの本製品の製造施設を引き続き保有、長期的な製造供給契約をEthicon社と締結 約80名の従業員がEthicon社に転籍 譲渡は2019年後半に完了する予定

これら譲渡で得られる資金を負債の減額に充て、中期的な目標である純有利子負債/調整後EBITDA倍率2倍に向けてレバレッジ低下を加速

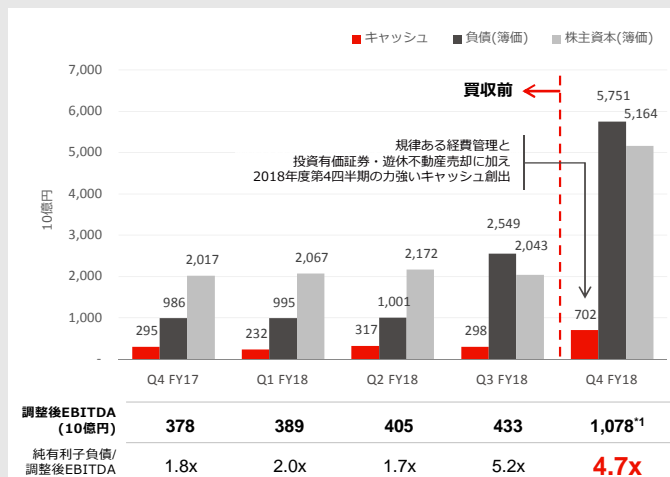
48 (注) 一定のクローリング条件、法的要件、規制上および適用される現地の労使協議会の要件を満たすことを前提として、XiidraとTachosilの譲渡は2019年後半に完了する予定。



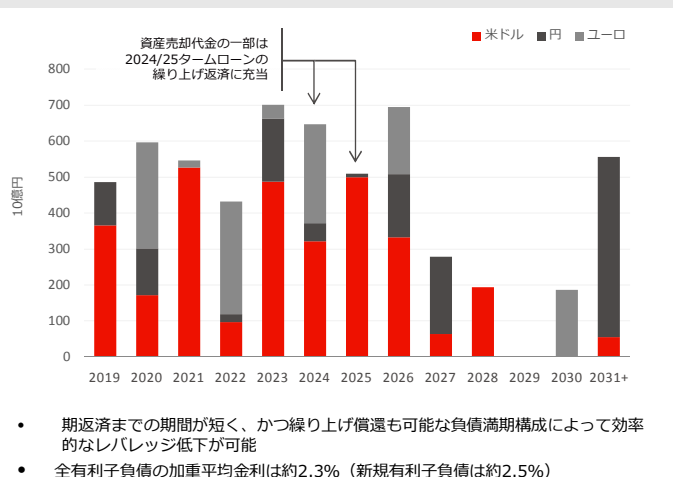
投資適格信用格付の維持と速やかなレバレッジ低下にコミット

想定より低いレバレッジ比率で2019年度をスタート、力強いキャッシュフローと資産売却の資金により、3-5年で純有利子負債/調整後EBITDA倍率を2倍に引き下げる目標に向けて順調な滑り出し

資本



負債返済スケジュール (暦年ベース) ^{*2}



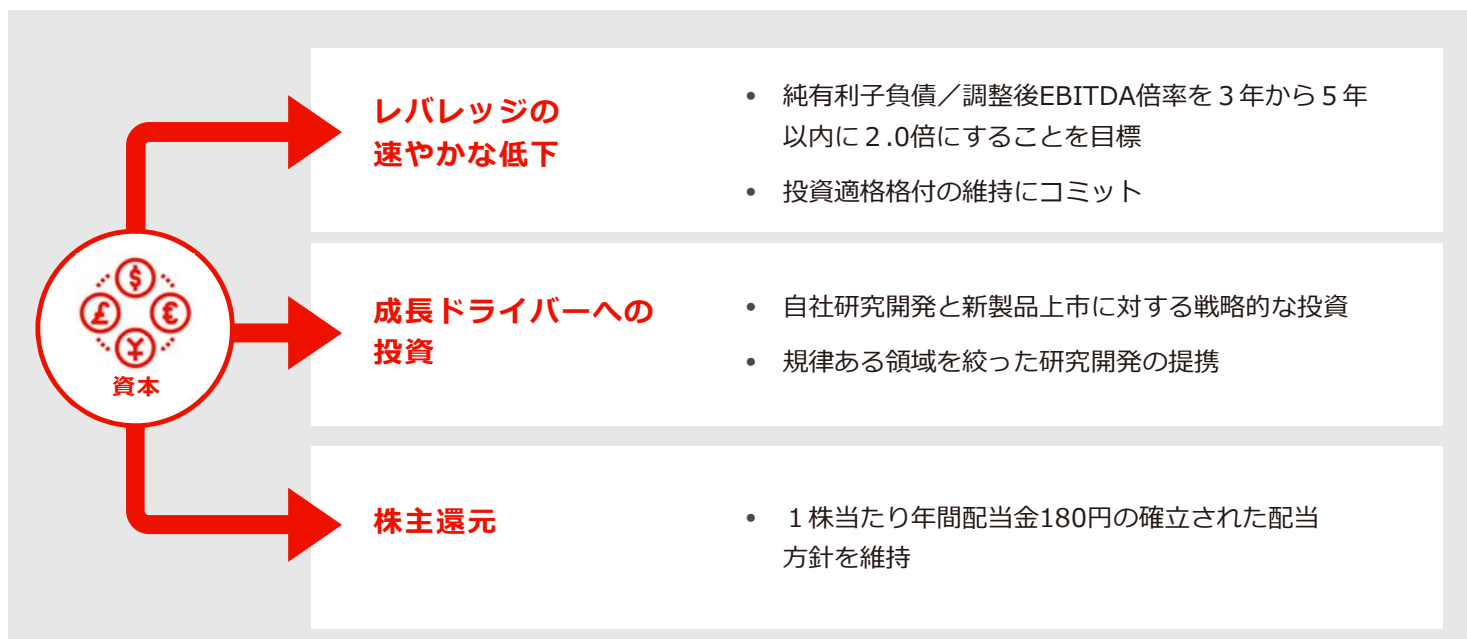
(注) 有利子負債は負債(社債、借入金、流動・非流動負債)から現金および現金同等物を控除した純額

^{*1} 旧武田薬品及び旧Shire社の2018年4月から2019年3月までの調整後EBITDA(試算ベース)、詳細についてはスライド74をご参照ください。

^{*2} 2031年以降の償還は、5,000億円の既存短期タムローンの借り換えに用いる2019年度第1四半期に発行予定の同額のハイブリッド証券(契約上の満期は60年、当初5~6年で期限前償還可能)を含む。社債発行の時期や発行額は市場の状況や他の要因で変更する可能性があります。



資本配分に関する優先事項



50



2019年度業績予想：Core Earningsは大幅に増加し+92.2%、買収関連費用と企業結合会計影響除きの当期利益は+17.7%

2019年度 財務ベース業績予想（対前年度）

(億円)	2018年度実績		2019年度予想		2019年度予想		2018年度実績		2019年度予想		対前年度
	連結合計	連結合計(A)	対前年度	対前年度	Shire社買収関連費用(B)	企業結合会計による影響(C)	Shire社買収関連費用と企業結合会計影響除き	Shire社買収関連費用と企業結合会計影響除き(A)-(B)-(C)	対前年度		
売上収益	20,972	33,000	+12,028	+57.4%	-	-	20,972	33,000	+12,028	+57.4%	
営業利益	2,050	△1,930	△3,980	-	△1,540	△6,930	4,715	6,540	+1,825	+38.7%	
当期利益	1,091	△3,830	△4,921	-	△2,260	△5,700	3,510	4,130	+620	+17.7%	
EPS	113円	△246円	△360円	-	△145円	△367円	365円	266円 ^{*1}	△99円	△27.2%	
Core Earnings	4,593	8,830	+4,237	+92.2%	-	-	4,593	8,830	+4,237	+92.2%	
							調整後EPS	365円	430円^{*2}	+65円	+17.7%

- 売上収益は旧Shire社が年間を通じて貢献し対前年度+57.4%
- 営業利益とEPSはShire社統合費用と企業結合会計による影響が大きく減少
- Core Earningsは旧Shire社の貢献、シナジー、規律ある経費の継続的な取り組みにより大幅に増加し+92.2%
- Shire社買収関連費用と企業結合会計による影響を除き、同一の株式数で算出した調整後EPSは+17.7%

同一の株式数を使用して調整

^{*1} 2019年度のEPS算出に用いた株式数 1,554,780,063株 (2019年3月31日時点)

^{*2} 2018年度のEPS算出に用いた株式数 961,476,993株 (2018年4月～2019年3月の期中平均) と同一の株式数を使用して算出した2019年度の調整後EPS

(注) 2019年度の業績予想には、XiidraおよびTachosilの譲渡にかかる業績影響を織り込んでおりません。当社は、これら譲渡が本業績予想に対して重要性ある影響を与えたとは見込んでおりません。当社は、これら譲渡の完了時期に依拠する影響額の合理的な見積もりが得られましたら、本業績予想にその影響を織り込む予定です。

51



財務面でのコミットメントを着実に達成

2018年度

実質的な Core Earnings の
対売上収益比率を
年+100-200bps向上

☑ **+540bps**

グローバル経費削減
イニシアチブの遂行と改善

☑ システムや予算、
KPIに組み込み

投資適格信用格付の維持

☑ 達成

買収に伴う資金調達を魅力的
な利率で完了

☑ **2.5%**
新規負債の加重平均利率

ノン・コア資産の売却を
通じたキャッシュの創出

☑ **2,009億円**
2018年度の資産売却

2019年度以降

コストシナジーのターゲットを2021年度まで
に14億米ドルから約20億米ドルに引上げ

コストシナジーおよび規律ある経費管理の継
続により、中期的に業界トップクラスの利益
率を実現

純有利子負債／調整後EBITDA倍率を
3～5年で2倍に

レバレッジ低下およびポートフォリオの
フォーカスに向けて、ノン・コア資産売却を追求

一株当たり年間配当金180円の確立された
配当方針を維持することを企図



CLOSING REMARKS



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO

01.
Introduction

02.
ビジネスエリアの
フォーカス

03.
R & Dエンジン

04.
強固な財務
プロフィール

05.
Closing
Remarks

06.
質疑応答



Better Health, Brighter Future

経営の基本精神に基づき患者さんを中心に考える
グローバルな研究開発型の
バイオ医薬品のリーディングカンパニー



質疑応答



クリストフ・ウェバー
代表取締役社長 CEO



アンドリュー・ブランブ
リサーチ&ディベロップメント
プレジデント



コスタ・サルコウス
チーフ フィナンシャル
オフィサー



岩崎 真人
ジャパン ファーマ
ビジネス ユニット
プレジデント



ジュリー・キム
プラズマ デライブド セラピーズ
ビジネスユニット
プレジデント

01.

Introduction

02.

ビジネスエリアの
フォーカス

03.

R & Dエンジン

04.

強固な財務
プロファイル

05.

Closing
Remarks

06.

質疑応答

APPENDIX



Coreと「実質的な成長」の定義

当社は、事業の計画策定および業績評価において、「**実質的な成長**」(Underlying Growth)の概念を採用しております。

「**実質的な成長**」は、当期と前年同期(四半期もしくは年間)の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を控除し算定されます。当社は、この「**実質的な成長**」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考え、「**Underlying Revenue Growth**」(実質的な売上収益の成長)、「**Underlying Core Earnings Growth**」(実質的なCore Earningsの成長)および「**Underlying Core EPS Growth**」(実質的なCore EPSの成長)を重要な財務指標としています。

なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

実質的な売上収益は、為替レートを一定として、財務ベースの売上収益に、報告期間における非定期的な事象に基づく影響および事業等の売却影響を調整して計算します。

Core Earningsは、純利益から、法人所得税費用、持分法にかかる投資損益、金融損益、その他の営業収益およびその他の営業費用、製品に係る無形資産償却費及び減損損失を控除して算出します。その他、企業買収に係る会計処理の影響や買収関連費用など、本業に起因しない(ノン・コア)とマネジメントが判断した事象による影響を調整します。

実質的なCore Earningsは、為替レートを一定として、Core Earningsに、報告期間における事業等の売却影響を調整して計算します。

実質的なCore EPSの算定にあたっては、為替レートを一定として、純利益から、事業等の売却影響、およびCore Earningsの算出において控除された項目と営業利益以下の各科目のうち、重要性のある、非定期的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない(ノン・コア)事象による影響を調整します。これらには、条件付対価に係る公正価値変動(時間的価値の変動を含む)影響などが含まれます。さらに、これらの調整項目に係る税金影響を控除した後、比較年度末の自社株式控除後の発行済株式総数で除して算定します。

EBITDAと調整後EBITDAの定義

当社がEBITDA及び調整後EBITDAをお示しする理由は、これらの指標が証券アナリスト、投資家その他の関係者が製薬業界における各社の評価を行うに際して頻りに用いられるものであり、有用と考えられることにあります。また、調整後EBITDAは、変化に富み予測が困難であるが故に経営とは無関係な諸要素により不透明となり、業績に実質的な影響を与え得る、また、継続的に期間毎の業績を評価することに困難にしの得る事業全体の動向を、投資家の皆様が把握する際に有用と考えられます。

EBITDA及び調整後EBITDAは、IFRSに基づく指標である営業利益及び当期利益等の業績指標と切り離して考慮されてはならず、また、これらの代替ととらえられてはならないものです。これらの指標は、他社において示されている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けて得ます。

EBITDA及び調整後EBITDAの有益性には、一例として、以下の限界があります。すなわち、(i)製薬業界における他社を含む、他社において用いられている類似の名称を付した財務指標との比較可能性に欠けて得るものです。また、(ii)業績評価において重視され得る一定の財務情報、例えば、企業買収や無形資産の償却による影響を除外しております。さらに、(iii)一定期間において継続して生じ得る一定の事項を除外しており、また、(iv)投資家において当社の長期的な観点からの経営には無関係ととらえる事項、例えば、事業売却の影響等を必ずしも除外していません。これらのIFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠する当期利益（損失）と同視してはならず、また、これらに代わるものととらえてはなりません。投資家の皆様におかれましては、当社の財務諸表全体を把握し、当社業績、事業価値及び収益予想を評価する基礎となる指標としてはIFRS準拠財務指標に依拠し、また、EBITDA及び調整後EBITDAは補足的な指標として用いられるようお願い申し上げます。

EBITDA及び調整後EBITDA

当社においては、EBITDAは、法人所得税費用、減価償却費及び償却費、並びに純支払利息控除前の純利益を指します。また、調整後EBITDAは、減損損失、その他の営業収益・費用（減価償却費及び償却費を除く）、金融収益・費用（純支払利息を除く）、持分法による投資損益及び企業結合会計影響や取引関連費用などの当社の中核事業に関連しないその他の項目を除外するように調整されたEBITDAを指します。

IFRSに準拠した指標の中では当期利益が最も類似します。IFRSにおいて最も類似した指標との照合については、本プレゼンテーションの

58 スライド74をご参照ください。



2018年度の財務ベース実績（詳細）

(億円)	2017年度		2018年度		2018年度			2018年度		
	旧武田薬品	旧武田薬品 ¹ (A)	対前年度	対前年度	Shire社 買収関連費用 ² (B)	旧Shire社 ³ (C)	企業結合会計 による影響 (D)	連結合計 (A)+(B)+(C)+(D)	対前年度	対前年度
売上収益	17,705	17,880	+175	+1.0%	-	3,092	-	20,972	+3,267	+18.5%
売上原価	△4,959	△4,764	+196	+3.9%	-	△1,016	△817	△6,597	△1,638	△33.0%
売上総利益	12,746	13,117	+371	+2.9%	-	2,076	△817	14,375	+1,629	+12.8%
対売上収益比率	72.0%	73.4%	+1.4pp		-	67.1%	-	68.5%		△3.4pp
販売費及び一般管理費	△6,281	△5,947	+334	+5.3%	△238	△985	△6	△7,176	△895	△14.2%
研究開発費	△3,254	△3,237	+17	+0.5%	△16	△430	-	△3,683	△429	△13.2%
製品に係る無形資産償却費	△1,261	△954	+307	+24.3%	-	0	△992	△1,947	△686	△54.4%
製品に係る無形資産減損損失	40	△87	△127	-	-	△0	-	△87	△127	-
その他の営業収益	1,694	1,612	△82	△4.8%	-	△14	-	1,599	△95	△5.6%
その他の営業費用	△1,266	△386	+880	+69.5%	△596	△49	-	△1,032	+234	+18.5%
営業利益	2,418	4,118	+1,700	+70.3%	△850	598	△1,816	2,050	△368	△15.2%
対売上収益比率	13.7%	23.0%	+9.4pp		-	19.3%	-	9.8%		△3.9pp
金融収益	395	166	△229	△57.9%	-	△0	2	168	△227	△57.4%
金融費用	△319	△271	+48	+15.1%	△413	△106	△42	△833	△514	△160.9%
持分法による投資損益	△322	△439	△117	△36.4%	-	3	-	△436	△114	△35.5%
税引前当期利益	2,172	3,574	+1,402	+64.5%	△1,263	494	△1,856	949	△1,223	△56.3%
当期利益	1,869	3,129	+1,260	+67.4%	△1,002	381	△1,417	1,091	△778	△41.6%
EPS (円) ⁴	239 円	399 円	+159 円	+66.6%	-	-	-	113 円	△126 円	△52.6%
Core Earnings	3,225	3,933	+708	+21.9%	-	660	-	4,593	+1,368	+42.4%
Core Earningsの対売上収益比率	18.2%	22.0%	+3.8pp		-	21.4%	-	21.9%		+3.7pp
円/ドル	111 円	111 円	△0 円	△0.4%				111 円	△0 円	△0.4%
円/ユーロ	129 円	129 円	△1 円	△0.4%				129 円	△1 円	△0.4%

¹ 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用、企業結合会計による影響を除く。

² 旧武田薬品と旧Shire社で発生した買収関連費用。

³ Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）、Shire社で発生した買収関連費用を除く。

⁴ 2018年度のEPS算出に用いた株式数：旧武田薬品 784,477,109株（Shire社買収完了前日の2019年1月7日時点）、連結合計 961,476,993株（2018年4月～2019年3月の期中平均）

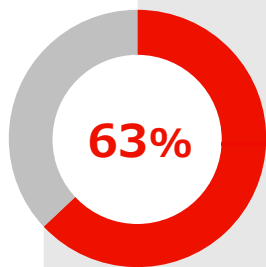


2018年度 実質ベース実績（旧武田薬品）

2018年度 実質ベース実績（旧武田薬品*1）（対前年度）




（億円）	2017年度	2018年度	対前年度
売上収益	16,732	17,623	+5.3%
売上総利益	12,011	12,902	+7.4%
対売上収益比率	71.8%	73.2%	+1.4pp
営業経費	△9,179	△8,975	+2.2%
対売上収益比率	△54.9%	△50.9%	+4.0pp
Core Earnings	2,832	3,927	+38.7%
対売上収益比率	16.9%	22.3%	+5.4pp
Core当期利益	2,097	2,706	+29.0%
Core EPS	268 円	346 円	+29.0%

タケダの成長ドライバー（旧武田薬品）



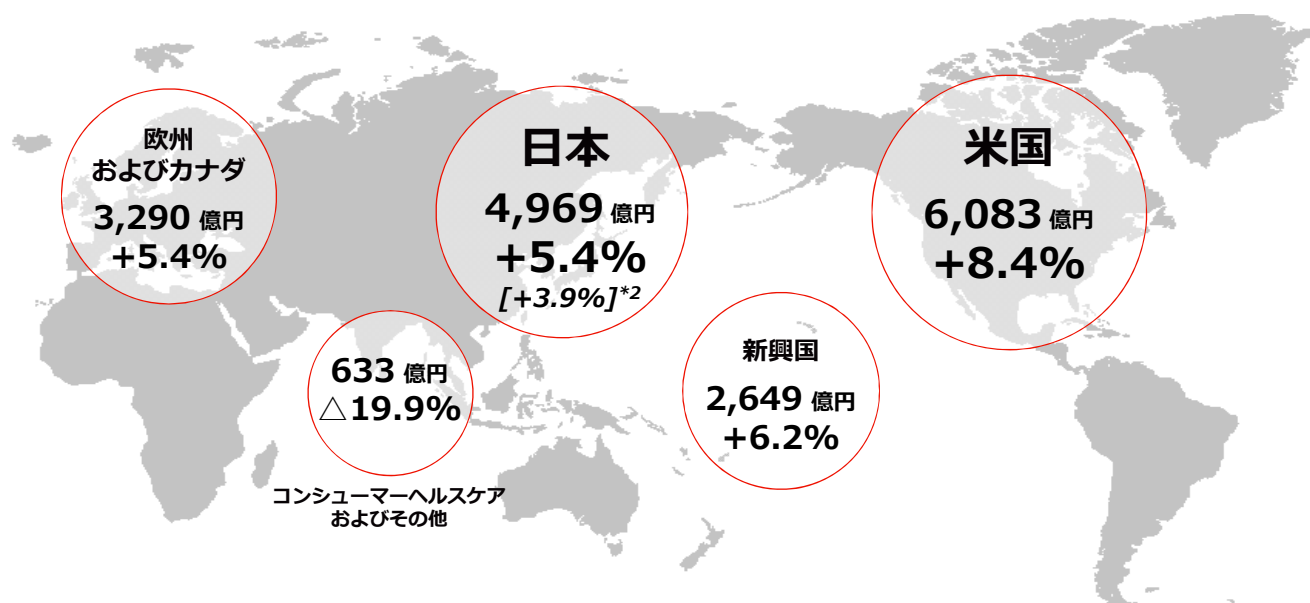
旧武田薬品の
売上収益合計

2018年度 旧武田薬品*1 実質ベース実績（対前年度）

成長ドライバー	2018年度
 消化器系疾患	+19.4%
 オンコロジー	+7.3%
 ニューロサイエンス	+15.5%
 新興国事業	+6.2%
合計	+11.1%

実質的な売上収益の成長 – 地域別（旧武田薬品）

2018年度旧武田薬品*1 実質的な売上収益: 1兆7,623億円 +5.3%



*1 旧Shire社の業績（2019年1月8日～2019年3月31日）を除く。

*2 日本における製品のライセンスアウトにかかる一時金収益を除いた場合：+3.9%

62



2018年度 財務ベースから Core への調整表（連結）

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整									Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業利益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	テバ合併会社に係る企業結合会計影響	その他の企業結合会計影響	投資有価証券/固定資産売却益	米国税制改革による影響	その他	
売上収益	20,972										20,972
売上原価	△6,597				817						△5,780
売上総利益	14,375				817						15,193
販売費及び一般管理費	△7,176			238	6						△6,932
研究開発費	△3,683			16							△3,668
製品等に係る無形資産償却費	△1,947	954			992						-
製品等に係る無形資産減損損失	△87	87									-
その他の営業利益	1,599		△584					△886		△129	-
その他の営業費用	△1,032		414	596						21	-
営業利益	2,050	1,041	△170	850	1,816			△886		△108	4,593
											Core Earnings
金融損益	△664			181	40					23	△420
持分法損益	△436					535					98
税引前当期利益	949	1,041	△170	1,031	1,856	535		△886		△85	4,272
法人所得税費用	141	△255	39	△205	△440	△164		302		△477	△1,059
非支配持分	1										1
当期利益	1,091	787	△131	826	1,417	371		△584		△562	3,214
											Core当期利益
EPS (円)	113										334
											Core EPS
株式数 (百万)	961										961

63



2017年度 財務ベースから Core への調整表 (連結)

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整								Core
		無形資産に係る償却費および減損損失	その他の営業利益/費用	シャイアー社買収関連費用	シャイアー社に係る企業結合会計影響	テバ(合併会社)に係る企業結合会計影響	その他の企業結合会計影響	投資有価証券/固定資産売却益	米国税制改革による影響	
売上収益	17,705									17,705
売上原価	△4,959						14			△4,945
売上総利益	12,746						14			12,760
販売費及び一般管理費	△6,281									△6,281
研究開発費	△3,254									△3,254
製品等に係る無形資産償却費	△1,261	1,261								-
製品等に係る無形資産減損損失	40	△40								-
その他の営業利益	1,694		△1,534				△160			-
その他の営業費用	△1,266		1,160						105	-
営業利益	2,418	1,221	△374				△160		105	3,225
										Core Earnings
金融損益	76						△303		76	△150
持分法損益	△322					400				78
税引前当期利益	2,172	1,221	△374			400	14	△463	181	3,152
法人所得税費用	△305	△359	158			△122	△5	149	△275	△798
非支配持分	2									2
当期利益	1,869	862	△216			278	10	△314	△275	2,356
										Core当期利益
EPS (円)	239									302
										Core EPS
株式数 (百万)	781									781

2018年度 旧武田薬品 Shire社買収関連費用含み

(億円)	2018年度		
	旧武田薬品 ^{*1} (A)	武田薬品で発生した Shire社買収関連費用 (B)	旧武田薬品 Shire社買収 関連費用含み (A)+(B)
売上収益	17,880	-	17,880
売上原価	△4,764	-	△4,764
売上総利益	13,117	-	13,117
販売費及び一般管理費	△5,947	△238	△6,184
研究開発費	△3,237	-	△3,237
製品に係る無形資産償却費	△954	-	△954
製品に係る無形資産減損損失	△87	-	△87
その他の営業収益	1,612	-	1,612
その他の営業費用	△386	△355	△741
営業利益	4,118	△593	3,525
金融損益	△105	△413	△518
持分法による投資損益	△439	-	△439
税引前当期利益	3,574	△1,006	2,568
当期利益	3,129	△791	2,337
EPS (円) ^{*2}	399 円	-	243 円
Core Earnings	3,933	-	3,933
Core Earningsの対売上収益比率	22.0%	-	22.0%

^{*1} 旧武田薬品で発生した買収関連費用を除く。

^{*2} 2018年度のEPS算出に用いた株式数：784,477,109株 (Shire社買収完了前日の2019年1月7日時点)

2018年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース (注)	財務ベースからCoreへの調整									Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業利益/ 費用	シャイア-社 買収関連 費用	シャイア-社 に係る 企業結合会計 影響	子(合)会社 に係る 企業結合会計 影響	その他の 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	米国税制改革 による影響	その他		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	17,880										17,880	△153	△104	17,623
売上原価	△4,764										△4,764	19	23	△4,722
売上総利益	13,117										13,117	△134	△81	12,902
販売費及び一般管理費	△6,184			238							△5,947	41	54	△5,852
研究開発費	△3,237										△3,237	111	4	△3,123
製品等に係る無形資産償却費	△954	954									-			-
製品等に係る無形資産減損損失	△87	87									-			-
その他の営業利益	1,612		△598							△886	-			-
その他の営業費用	△741		365	355							-		21	-
営業利益	3,525	1,041	△233	593						△886	3,933	17	△23	3,927
											Core Earnings	実質的なCore Earnings		
金融損益	△518			181						23	△314	31	3	△279
持分法損益	△439					535					96	1	-	97
税引前当期利益	2,568	1,041	△233	774		535			△886	△85	3,714	50	△20	3,745
法人所得税費用	△231	△255	50	△157		△164			302	△572	△1,027	△17	8	△1,036
非支配持分	1										1	-	△4	△3
当期利益	2,337	787	△183	616		371			△584	△657	2,688	33	△15	2,706
											Core当期利益	実質的なCore当期利益		
EPS (円)	243										280			346
											Core EPS	実質的なCore EPS		
株式数 (百万)	961										961			781

(注) 旧武田薬品で発生したShire社買収関連費用を含む。



2017年度 財務ベースから Core/Underlying Core への調整表 (旧武田薬品)

(億円)	財務ベース	財務ベースからCoreへの調整									Core	Coreから実質ベースへの調整		Underlying Core (実質ベース)
		無形資産 に係る 償却費および 減損損失	その他の 営業利益/ 費用	シャイア-社 買収関連 費用	シャイア-社 に係る 企業結合会計 影響	子(合)会社 に係る 企業結合会計 影響	その他の 企業結合会計 影響	投資有価証券/ 固定資産 売却益	米国税制改革 による影響	その他		為替影響	事業等の 売却影響	
売上収益	17,705										17,705	△378	△595	16,732
売上原価	△4,959						14				△4,945	43	181	△4,721
売上総利益	12,746						14				12,760	△335	△414	12,011
販売費及び一般管理費	△6,281										△6,281	101	131	△6,048
研究開発費	△3,254										△3,254	113	10	△3,131
製品等に係る無形資産償却費	△1,261	1,261									-			-
製品等に係る無形資産減損損失	40	△40									-			-
その他の営業利益	1,694		△1,534						△160		-			-
その他の営業費用	△1,266		1,160							105	-			-
営業利益	2,418	1,221	△374			14	△160			105	3,225	△121	△273	2,832
											Core Earnings	実質的なCore Earnings		
金融損益	76								△303	76	△150	72	△2	△80
持分法損益	△322					400					78	△1	-	77
税引前当期利益	2,172	1,221	△374			400	14	△463		181	3,152	△49	△274	2,829
法人所得税費用	△305	△359	158			△122	△5	149	△275	△38	△798	9	61	△727
非支配持分	2										2	△0	△7	△5
当期利益	1,869	862	△216			278	10	△314	△275	143	2,356	△40	△219	2,097
											Core当期利益	実質的なCore当期利益		
EPS (円)	239										302			268
											Core EPS	実質的なCore EPS		
株式数 (百万)	781										781			781



財務ベース売上収益から実質的な売上収益への調整（旧武田薬品）

(億円)	第4四半期				年間			
	2017年度	2018年度	対前年同期		2017年度	2018年度	対前年同期	
売上収益	4,010	4,080	+70	+1.8%	17,705	17,880	+175	+1.0%
為替影響*	△91	△7	+84	+2.2pp	△378	△153	+225	+1.3pp
為替影響*除き売上収益	3,919	4,073	+154	+3.9%	17,327	17,727	+400	+2.3%
事業等の売却影響**	△137	△24	+113	+3.1pp	△595	△104	+491	+3.0pp
テバJVへの長期収載品	△1	-	+1	+0.3pp	△187	-	+187	+1.2pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+0.2pp
マルチラブ社	△12	-	+12	+3.3pp	△45	△11	+34	+0.2pp
テックプール社	△48	-	+48	+13.4pp	△182	△66	+116	+0.7pp
その他	△76	△24	+52	+14.3pp	△145	△26	+119	+0.7pp
実質的な売上収益	3,782	4,049	+267	+7.1%	16,732	17,623	+891	+5.3%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レートを（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の売上を含めています。

(注) 財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

営業利益から実質的なCore Earningsへの調整（旧武田薬品）

(億円)	第4四半期				年間			
	2017年度	2018年度 (注)	対前年同期		2017年度	2018年度 (注)	対前年同期	
営業利益	△805	681	+1,486	-	2,418	3,525	+1,107	+45.8%
無形資産の償却費および減損損失	358	247	△110	-	1,221	1,041	△180	△10.7pp
Shire社買収統合費用（その他の営業費用）	-	214	+214	-	-	355	+355	+21.2pp
その他の営業収益/費用	879	115	△764	-	△374	△258	+115	+6.9pp
非定常項目（Shire社買収一般管理費）	-	128	+128	-	-	238	+238	+14.2pp
非定常項目（その他）	△134	△898	△764	-	△41	△968	△928	△55.4pp
Core Earnings	298	487	+189	+63.4%	3,225	3,933	+708	+21.9%
為替影響*	△22	27	+48	+33.4pp	△121	17	+138	+6.0pp
事業等の売却影響**	△43	△24	+18	+12.7pp	△273	△23	+249	+10.8pp
テバJVへの長期収載品	△0	-	+0	+0.1pp	△169	-	+169	+7.3pp
TAK-935	-	-	-	-	△35	-	+35	+1.5pp
マルチラブ社	3	△0	△3	△1.8pp	9	△1	△11	△0.5pp
テックプール社	△4	0	+4	+2.5pp	△9	5	+14	+0.6pp
その他	△42	△24	+17	+12.0pp	△69	△26	+43	+1.9pp
実質的なCore Earnings	233	489	+256	+109.5%	2,832	3,927	+1,095	+38.7%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レートを（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 旧武田薬品で発生したShire社買収関連費用を含む。財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイト掲載のエクセル調整表をご参照ください。

当期利益から実質的なCore当期利益への調整（旧武田薬品）

(億円)	第4四半期				年間			
	2017年度	2018年度 (注)	対前年同期		2017年度	2018年度 (注)	対前年同期	
当期利益	△540	693	+1,233	-	1,869	2,337	+469	+ 25.1%
EPS	△ 69 円	51 円	120 円	-	239 円	243 円	4 円	+ 1.6%
無形資産の償却費および減損損失	249	181	△68	-	862	787	△75	△6.1pp
Shire社買収統合費用（その他の営業費用）	-	160	+160	-	-	270	+270	+21.7pp
その他の営業収益/費用	650	111	△539	-	△216	△183	+33	+2.7pp
Shire社買収一般管理費	-	105	+105	-	-	215	+215	+17.3pp
Shire社買収金融費用	-	6	+6	-	-	132	+132	+10.6pp
その他の非定常項目の調整	△177	△1,197	△1,020	-	△159	△869	△711	△57.2pp
Core当期利益	182	59	△122	△67.3%	2,356	2,688	+332	+ 14.1%
為替影響*	△6	3	+9	+0.3pp	△40	33	+73	+3.9pp
事業等の売却影響**	△67	△25	+42	+1.2pp	△219	△15	+204	+11.0pp
実質的なCore当期利益	108	37	△71	△65.8%	2,097	2,706	+608	+ 29.0%
実質的なCore EPS	14 円	5 円	△ 9 円	△65.8%	268 円	346 円	78 円	+ 29.0%

* 為替影響は、2017年度および2018年度に、2018年度の計画レートを（1ドル=105円、1ユーロ=130円）を適用して算出しています。

** 事業等の売却影響の2017年度には、主に2017年5月にテバ社との合併会社に売却した長期収載品にかかる一時的な売却益を含めています。また、2018年度には、主にマルチラブ社とテックプール社の損益を含めています。

(注) 旧武田薬品で発生したShire社買収関連費用を含む。財務ベースからCoreベース、Coreベースから実質ベースへの調整については、ウェブサイトに掲載のエクセル調整表をご参照ください。



フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2017年度	2018年度	対前年度	
当期利益	1,867	1,090	△777	△41.6%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,957	2,826	+869	
運転資本増減（△は増加）	199	289	+89	
法人税等の支払額	△299	△449	△150	
その他	54	△471	△525	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,779	3,285	△494	△13.1%
有形固定資産の取得による支出	△670	△777	△107	
有形固定資産の売却による収入	30	507	+478	
無形資産の取得による支出	△613	△564	+48	
投資の取得による支出	△169	△171	△2	
投資の売却、償還による収入	407	650	+243	
事業売却による収入（処分した現金及び現金同等物控除後）	851	851	+1	
フリー・キャッシュ・フロー	3,615	3,781	+167	+4.6%



営業フリー・キャッシュ・フロー

(億円)	2017年度	2018年度	対前年度	
当期利益	1,867	1,090	△777	△41.6%
減価償却費、償却費及び減損損失	1,957	2,826	+869	
運転資本増減 (△は増加)	199	289	+89	
法人税等の支払額	△299	△449	△150	
その他 ^{*1}	△214	△471	△257	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,511	3,285	△226	△6.4%
有形固定資産の取得	△636	△777	△141	
無形資産の取得 ^{*2}	△446	△564	△118	
営業フリー・キャッシュ・フロー	2,429	1,944	△485	△20.0%

- 不動産と投資有価証券の売却により、さらに1,734億円のキャッシュを創出
- ノン・コア事業であるテックプール社とマルチラブ社の売却により、さらに275億円のキャッシュを創出

次の項目は上記のキャッシュ・フロー計算書から控除しています。

*1 2017年度: エスクロー口座からユニファーム社への支払いに伴い発生した収入268億円 (投資活動CFの同額の支出も控除)

*2 2017年度: 将来ロイヤリティ支払いにかかる権利を買い戻した支払い166億円

72



純有利子負債/調整後EBITDA

(億円)	2017年度	2018年度	対前年度	
営業フリー・キャッシュ・フロー	2,429	1,944	△485	△20.0%
和光純薬株式売却	845	-		
マルチラブ社及びテックプール社株式売却	-	275		
その他投資有価証券売却 ^{*1}	406	650		
不動産の売却 ^{*1}	393	1,083		
拘束性預金の預入 (タイジェニクス社)	△718	-		
配当金	△1,419	△1,430		
長期借入金の返済と社債の償還	△1,400	-		
ブリッジ・タームローン借入枠等 - Shire社買収	-	△195		
Shire社買収による支出 (取得した現預金控除後)	-	△28,919		
借入の実行および社債の発行による収入 - Shire社買収	-	32,959		
その他	△786	△2,292		
現金の増減額 (△は減少)	△249	4,076	+4,325	-
(億円)	2017年度末	2018年度末	対前年度末	
現金および現金同等物 ^{*2}	2,945	7,021	+4,076	+138.4%
有利子負債 ^{*3}	△9,857	△57,510	△47,653	△483.5%
純有利子負債	△6,911	△50,489	△43,577	△630.5%
有利子負債/調整後EBITDA倍率	2.6 x	10.7 x	+8.1	
純有利子負債/調整後EBITDA倍率	1.8 x	9.4 x	+7.6	
純有利子負債/調整後EBITDA倍率 (試算ベース)		4.7 x		
調整後EBITDA ^{*4}	3,777	5,364	+1,587	+42.0%
調整後EBITDA (試算ベース) ^{*4}		10,777		

*1 2018年度売却目標: 合計約1,100億円 *2 各期末日の翌日から1年以内に償還期限の到来する短期投資を含む

*3 流動・非流動の社債及び借入金 *4 詳細はスライド74をご参照ください。

73



当期利益からEBITDA/調整後EBITDAへの調整

(億円)	通期 (3月31日までの12ヶ月)		
	2017	2018	2019
当期利益	1,155	1,867	1,090
法人所得税費用	278	305	△141
減価償却費及び償却費	1,714	1,821	2,724
純支払利息	55	68	416
EBITDA	3,202	4,061	4,089
減損損失	514	135	101
その他の営業収益・費用 (減価償却費及び償却費を除く)	△783	△611	△586
金融収益・費用 (純支払利息を除く)	54	△144	249
持分法による投資損益	15	322	436
その他の調整項目			
ARIAD社の買収に係る費用	32	-	-
ARIAD社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	-	14	-
Shire社買収に係る費用	-	-	238
Shire社買収に係るその他の費用	-	-	16
Shire社の買収で取得した棚卸資産の公正価値調整による利益への影響	-	-	822
調整後EBITDA	3,034	3,777	5,364
Shire社のNon GAAP EBITDA (2018年4月～2018年12月) *	-	-	5,413
調整後EBITDA (試算ベース) **	-	-	10,777

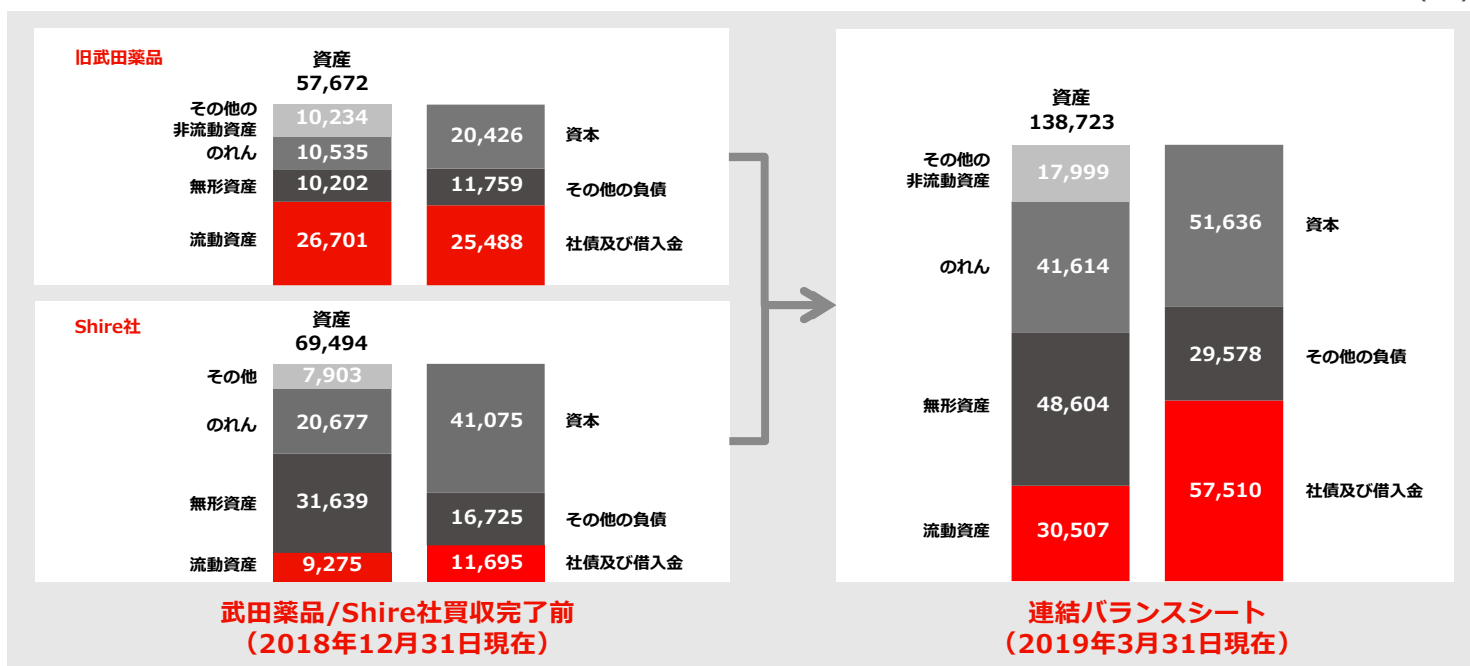
* Shire社の2018年1月～12月 (12ヶ月) のNon GAAP EBITDAからShire社の2018年1月～3月 (3ヶ月) のNon GAAP EBITDAを控除し、2018年4月～12月の平均為替レート1米ドル110.8円で換算して算出。

** 武田薬品とShire社の2018年4月～2019年3月 (12ヶ月) の調整後EBITDAの合算。

(注) 当社の調整後EBITDA及びシャイアー社のNon-GAAP EBITDAは、(1) 当社の業績がIFRSに基づいており、シャイアー社の業績が米国会計基準に基づいていること、及び (2) 当社の調整後EBITDAとシャイアー社のNon-GAAP EBITDAの定義が異なることから、直接的に比較検討可能なものではありません。

連結バランスシート (2019年3月31日現在)

(億円)



2019年度業績予想

(億円)	2018年度 実績	2019年度 業績予想	対前年度		2018年度 実績	2019年度 業績予想	対前年度		Shire社買収関連費用		2018年度	2019年度
			増減	増減率			増減	増減率	販売及び一般管理費・研究開発費 - 買収費用等	その他の営業費用 - 統合費用		
売上収益	20,972	33,000	+12,028	+57.4%	20,972	33,000	+12,028	+57.4%	金融費用 - プリッジローンフィー、利息等	△413	△870	
研究開発費	△3,683	△4,910	△1,227	△33.3%	△3,667	△4,910	△1,243	△33.9%	税引前当期利益影響	△1,263	△2,410	
無形資産償却費及び減損損失	△2,034	△6,590	△4,556	△224.0%	△1,041	△2,200	△1,159	△111.3%	主な企業結合会計による影響			
その他の営業収益	1,599	90	△1,509	△94.4%	1,599	90	△1,509	△94.4%	売上原価 - 棚卸資産の公正価値調整	△822	△2,530	
その他の営業費用	△1,032	△1,720	△688	△66.7%	△435	△180	+255	+58.6%	製品等に係る無形資産償却費 - Shire社買収関連	△992	△4,390	
営業利益	2,050	△1,930	△3,980	-	4,715	6,540	+1,825	+38.7%	その他の非資金性の費用			
税引前当期利益	949	△3,690	△4,639	-	4,068	5,810	+1,742	+42.8%	製品等に係る無形資産償却費 - 旧武田薬品関連	△954	△990	
当期利益	1,091	△3,830	△4,921	-	3,510	4,130	+620	+17.7%	製品等に係る無形資産減損損失	△87	△1,210	
EPS (円)	113 円	△246 円	△360 円	-	365 円	266 円	△99 円	△27.2%				
Core Earnings	4,593	8,830	+4,237	+92.2%	4,593	8,830	+4,237	+92.2%				
円/ドル	111 円	111 円	△0 円									
円/ユーロ	129 円	124 円	△5 円									

(注) 2019年度の業績予想には、XiidraおよびTachosilの譲渡にかかる業績影響を織り込んでおりません。当社は、これら譲渡が本業績予想に対して重要性ある影響を与えるとは見込んでおりません。当社は、これら譲渡の完了時期に依拠する影響額の合理的な見積もりが得られましたら、本業績予想にその影響を織り込む予定です。



ESGへの取り組み: 企業価値の創造とサステナビリティへの取り組みにフォーカス

OUR LEADERSHIP

持続可能な社会の実現にコミット

- 医薬品アクセス戦略 (Access to Medicines)
- 途上国におけるグローバルCSRプログラム
- 環境保護に関する目標と自主的なCO₂排出量削減目標を制定
- 安全活動「Safe Takeda」イニシアチブ
- サプライチェーン管理とコンプライアンス推進



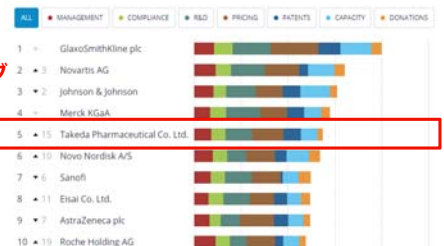
国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」を踏まえ、CSR活動を推進

OUR RECOGNITION

主要な団体との連携によりサステナビリティを推進



タケダはAccess to Medicine Indexにおいて5位にランキング



略語用語集

AD	Alzheimer's disease (アルツハイマー病)	DM	diabetes mellitus (糖尿病)	iPSC	induced pluripotent stem cells (人工多能性幹細胞)	PK	pharmacokinetics (薬物動態)
ADC	antibody drug conjugate (抗体薬物複合体)	DU	duodenal ulcer (十二指腸潰瘍)	LBD	Lewy Body Dementia (レビー小体病)	POC	proof of concept (概念実証)
ADHD	attention deficit hyperactivity disorder (注意欠陥多動性障害)	Dx	diagnosis (診断)	LB AML	Low-Blast Acute Myeloid Leukemia (低 blasts 急性骨髄性白血病)	POI	post-operative ileus (術後イレウス)
ALK	anaplastic lymphoma kinase (未分化リンパ腫キナーゼ)	EE H	erosive esophagitis healing (びらん性食道炎の治療)	LS1	Lysine specific demethylase 1 (リジン特異的脱メチル化酵素1)	PTCL	peripheral T-cell lymphoma (末梢性T細胞リンパ腫)
ALS	amyotrophic lateral sclerosis (筋萎縮性側索硬化症)	EE M	erosive esophagitis maintenance (びらん性食道炎の再発予防)	LCM	lifecyle management (ライフ・サイクル・マネジメント)	R/R	relapsed/refractory (再発/難治)
AML	acute myeloid leukemia (急性骨髄性白血病)	EFI	enteral feeding intolerance (経腸栄養不耐性)	mAb	monoclonal antibodies (モノクローナル抗体)	RA	rheumatoid arthritis (リウマチ性関節炎)
AMR	antibody mediated rejection (抗体関連型拒絶反応)	EGFR	epidermal growth factor receptor (上皮増殖因子受容体)	MAOB	monoamine oxidase B (モノアミン酸化酵素B)	RCC	renal cell cancer (腎細胞がん)
ASCT	autologous stem cell transplant (自家幹細胞移植)	EOE	eosinophilic esophagitis (好酸球性食道炎)	MLD	metachromatic leukodystrophy (異染色性白質シストロフィー)	RTK	receptor tyrosine kinase (受容体チロシンキナーゼ)
ARD	acid-related diseases (酸関連疾患)	ESCC	esophageal squamous-cell carcinoma (食道扁平上皮がん)	NAE	NEDD8 activating enzyme (NEDD8活性化酵素)	sALCL	systemic anaplastic large cell lymphoma (全身性未分化大細胞リンパ腫)
BTK	Bruton's tyrosine kinase (ブルトン型チロシンキナーゼ)	FL	front line (フロントライン適応)	NASH	non-alcoholic steatohepatitis (非アルコール性脂肪性肝炎)	SBS	short bowel syndrome (短腸症候群)
BBB	blood brain barrier (血液脳関門)	FLT-3	FMS-like tyrosine kinase 3 (FMS様チロシンキナーゼ3)	ND	newly diagnosed (新たに診断された)	SC	subcutaneous formulation (皮下投与製剤)
BOS	budesonide oral solution (ブデソニド経口懸濁液)	FSI	first subject in (最初の患者登録)	NDA	new drug application (新薬承認申請)	SCT	stem cell transplant (幹細胞移植)
CAR-T	Chimeric antigen receptor-T (次世代型キメラ抗原受容体発現T細胞)	GCC	guanylyl cyclase C (グアニル酸シクラーゼC)	Neg	negative (陰性)	SCZ	schizophrenia (統合失調症)
CD	Crohn's disease (クローン病)	GERD	gastroesophageal reflux disease (胃食道逆流症)	NERD	non-erosive reflux disease (非びらん性胃食道逆流症)	SLE	systemic lupus erythematosus (全身性エリテマトーデス)
CHAWI	congenital hemophilia A with inhibitors (インヒビター保有先天性血友病A)	GI	gastrointestinal (胃腸)	NF	new formulation (新規剤型)	sq	squamous (扁平上皮)
CIAS	cognitive impairment associated with schizophrenia (統合失調症に伴う認知障害)	GnRH	gonadotropin-releasing hormone (ゴナドトロピン放出ホルモン)	NK	natural killer (ナチュラルキラー)	SR	steroid refractory (ステロイド抵抗性)
CIC	chronic idiopathic constipation (慢性特発性便秘)	GU	gastric ulcer (胃潰瘍)	NME	new molecular entity (新規候補物質)	SR-GvHD	steroid refractory acute graft vs host disease (ステロイド抵抗性急性移植片対宿主病)
CIDP	chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy (慢性炎症性脱髄性多発根神経炎)	GvHD	graft versus host disease (移植片対宿主病)	NSCLC	non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌)	STING	stimulator of interferon genes (インターフェロン誘導子刺激因子)
CML	chronic myeloid leukemia (慢性骨髄性白血病)	HAE	hereditary angioedema (遺伝性血管浮腫)	NSCT	non stem cell transplant (非幹細胞移植)	SUMO	small ubiquitin-related modifier (低分子ユビキチン様修飾因子)
CMML	chronic myelomonocytic leukemia (慢性骨髄単球性白血病)	H2H	head to head (直接比較)	NS	negative symptoms (陰性症状)	SYK	spleen tyrosine kinase (脾臓チロシンキナーゼ)
CSF	cerebrospinal fluid (脳脊髄液)	HCC	hepatocellular carcinoma (肝細胞がん)	OIC	opioid induced constipation (オピオイド誘発性便秘症)	TESD	treatment emergent sexual dysfunction (治療に起因する性機能障害)
CNS	central nervous system (中枢神経系)	HemA	hemophilia A (血友病A)	ORR	overall response rate (全奏効率)		
CRL	complete response letter (審査完了報告通知)	HER2	human epidermal growth factor receptor 2 (ヒト上皮成長因子受容体2)	PABP	poly (ADP-ribose) polymerase (ポリADPリボースポリメラーゼ)		
CTCL	cutaneous T Cell Lymphoma (皮膚T細胞性リンパ腫)	HL	Hodgkin's lymphoma (ホジキンリンパ腫)	PBS	phosphate buffered saline (リン酸緩衝生理食塩水)		
CTTP	congenital thrombotic thrombocytopenic purpura (先天性の血栓性血小板減少性紫斑病)	HR MDS	high risk myelodysplastic syndromes (高リスク骨髄異形成症候群)	PCAB	potassium competitive acid blocker (カリウムイオン競合型アシッドブロッカー)		
DAAO	D-amino acid oxidase (D-アミノ酸酸化酵素)	IBD	inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患)	PFIC	progressive familial intrahepatic cholestasis (進行性家族性肝内胆汁鬱滞)		
DED	dry eye disease (ドライアイ)	IBS-C	irritable bowel syndrome with constipation (過敏性腸症候群便秘型)	Ph+ ALL	Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia (フィラデルフィア染色体陽性ヒト急性リンパ性白血病)		
DLBCL	diffuse large B cell lymphoma (びまん性大細胞型B細胞リンパ腫)	IND	investigational new drug (治験薬)	PID	primary immunodeficiency (原発性免疫不全)		
		I/O	immuno-oncology (がん免疫治療)	PPI	proton pump inhibitor (プロトンポンプ阻害薬)		
		IV	intravenous (静脈投与)				